

授業科目	生物学入門				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>臨床医学の導入として“食”と“性”の間を巡回する生物が、発生から進化を遂げていく中で、生体に有利な解剖学的特徴と生理学的特性をどのように取り入れてヒトになったかを学習する。その理解により看護学習に必要とされる知識を習得する。</p> <p>【達成目標】</p> <p>ヒトの生きる目的は生命維持と種の継続である。そのために各種システムを備え、生命維持に必要な恒常性を保ち、動的平衡状態を維持している。そのシステムを次のように分類して学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事摂取からエネルギーと最終的には身体構成に必要なアミノ酸を取り出す消化・吸収・排泄システムを理解する</li> <li>2. 酸素を取り入れ二酸化炭素を排泄する呼吸システムと、栄養分のほか酸素を身体各所に循環システムを理解する</li> <li>3. 「動的平衡」を理解する</li> <li>4. 「恒常性（ホメオスタシス）」の理解と、それをになう内分泌系、腎臓、肺の生理機能を理解する</li> <li>5. 各感覚器から情報取得して判断し、行動に移す神経・運動システムを理解する</li> <li>6. 生殖医学の基礎を学ぶ</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <p>「講義」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経口摂取から排泄までの消化器系を学習する</li> <li>2. 心臓と肺を中心とする呼吸・循環器系を学習する</li> <li>3. 恒常性維持をになう腎臓・代謝・内分泌系などを学習する</li> <li>4. 情報収集・認知・行動を行う脳神経系の働きを学習する</li> <li>5. 情報収集・認知・行動を行う脳神経系の働きを学習する</li> <li>6. 骨・関節・筋の相互作用による運動を学ぶ</li> <li>7. 外的侵襲あるいは内部環境の破綻からどのように体を守るシステムを備えているか学ぶ</li> <li>8. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>講師作成資料 視聴覚機材</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験,提出物 100%</p>					
備考：					

授業科目	論理的思考演習				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>科学的根拠に基いた論理的思考力を育成し、また、論理的な表現能力を身につけ、看護実践領域で活用できる能力を養う。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物事を既成概念にとらわれることなく、多面的にとらえ、考えることができる。</li> <li>2. 創造力・思考力を豊かにすることで、問題発見・解決能力を身につける。</li> <li>3. 自分の考えを筋道立てて他者に主張できるようになる。</li> <li>4. 経験や勘だけではなく、根拠に基づいて物事を説明できるようになる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <p>「講義」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要：論理的思考とは？</li> <li>2. 「自分で考えること」「意思決定すること」の重要性</li> <li>3. 人間の自律と主体的思考</li> <li>4. 看護の責任と義務</li> <li>5. 論理的思考の概念（ロジカルシンキングとクリティカルシンキング）</li> <li>6. 論理的思考に影響を与える要因</li> <li>7. 論理的思考のための方法論</li> </ol> <p>「学内演習」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ロジカルシンキングに基づく練習問題</li> <li>2. 練習問題の発表、討論</li> <li>3. クリティカルシンキングに基づく練習問題</li> <li>4. 練習問題の発表、討論</li> <li>5. 相手に伝わる「伝え方」のワーク1</li> <li>6. 相手に伝わる「伝え方」のワーク2</li> <li>7. レポート作成：演習を通して論理的思考を考える</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>講師作成資料</p> <p>【成績評価】</p> <p>授業レポート及び授業態度：30%</p> <p>冬期レポート及びその発表：30%</p> <p>定期試験：40%</p>					
備考					

授業科目	心理学				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】 対象とする人間の心や行動を理解するために必要な理論を学ぶ。</p> <p>【達成目標】 心理学の基礎的な理論を理解し、人間の発達や学習の過程、人間関係などについて説明することができる。</p> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学とは（講義）</li> <li>2. 発達：発達課題（講義）</li> <li>3. 発達：愛着（講義）</li> <li>4. 記憶の心理学（講義）</li> <li>5. 学習（講義）</li> <li>6. 動機づけ（講義）</li> <li>7. 心理臨床（講義）</li> <li>8. カウンセリングの技法（講義）</li> </ol> <p>【教科書・参考書】 なし</p> <p>【成績評価】 レポート 授業態度</p>					
備考					

授業科目	社会学				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15 時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>社会現象の実態や、現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）等から個人、行為や行動、家族やコミュニティなどの集団、組織、相互作用等を社会の中で多角的に、時に批判的に見る社会学的な見方、とらえ方、社会に関する知識を身につける。人々の暮らしの中から生きるための地域の特徴や生活の在り方、考え方について理解を深め、地域で暮らす社会の一員としての位置づけについて洞察し看護者としての役割について理解を深める。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 具体的事例を提示しながら、社会学という見方・考え方について説明できる</li> <li>2. 具体的事例を提示しながら、社会学という見方・考え方の利点について説明できる</li> <li>3. 自らの看護実践力を省察するための「エピソード記述」という手法について説明できる</li> </ol> <p>【授業内容および授業方法】</p> <p>&lt;授業内容&gt;</p> <p>上記の目標達成に向けて、以下に示す事項を内容とする。</p> <p>第1回：本授業の目的・内容・方法，前期「教育学」を捉え直す（社会の中の個人）</p> <p>第2回：社会学という見方・考え方（教育格差，水を飲まない高校生）</p> <p>第3回：ラベリング論（社会的産物，意味づけ）</p> <p>第4回：シンボリック相互作用論，社会学の基礎概念</p> <p>第5回：意味世界と社会的文脈（子どもの意味世界，病者の意味世界）</p> <p>第6回：意図せざる結果</p> <p>第7回：看護実践力を「エピソード記述」で振り返る</p> <p>第8回：試験（小テスト：持込不可，全3問に記述で答える）</p> <p>&lt;授業方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①板書もしくはPowerPointデータを表示しながら，講義形式で進めていく</li> <li>②なお，板書やPowerPointデータの内容を記した資料は配付しない</li> <li>③したがって，各自ルーズリーフ等を準備し，必要に応じて記録（メモをとる）すること</li> <li>④本授業ではたびたび発問する。聞くではなく「考える」というスタンスで授業に臨むこと</li> <li>⑤教科書は，各自で予習・復習に用いること</li> <li>⑥毎回授業終了時に「大福帳」に考えたことを記し提出すること（「大福帳」提出をもって出席と見なす）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>教科書：住田正樹・高島秀樹編著『変動社会と子どもの発達（改訂版）』北樹出版,2018</p> <p>* 教育学と同じ教科書</p> <p>【成績評価】</p> <p>以下2つの側面からの評価を総合して判定する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「大福帳」記入内容：50%</li> <li>②小テストでの得点：50%</li> </ol>					
備考					

授業科目	国語リテラシー				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>文部科学省はこれからの時代に求められる国語力として、国語力は「知的活動」「感性・情緒」「コミュニケーション能力」のなどの基盤であり個人の自己形成にかかわる重要な能力である指針を示している。これからの社会人（医療人・看護者）としての基本として重要な理解する力と表現する力、物事を考える力について学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「聞く」「話す」「読む」「書く」を組み合わせた表現ができる。</li> <li>2. 文章を論理的に書くことができる。</li> <li>3. 自分の意見をきちんと述べるための論理的思考力を培う。</li> <li>4. 言葉を通して看護の仕事を実行できるように論理的思考力を獲得し自己を確立を図る。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <p>「講義」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語表現の基礎</li> <li>2. 組織人としての基本 仕事の進め方、指示の受け方、報告の仕方</li> <li>3. 職場の人間関係 人間関係とは、人間関係のあり方</li> <li>4. 議論（話し合い）のあり方</li> <li>5. 文章の基本、文章作成の基本</li> <li>6. 報告の基本、電子メールの書き方、情報収集方法</li> <li>7. 作成文章のプレゼンテーション</li> </ol> <p>「学内演習」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的コミュニケーションの注意点</li> <li>2. 基本的コミュニケーションのとり方 挨拶の基本、対応の基本、ストロークなど</li> <li>3. 非言語的コミュニケーションのとり方 座る位置、共感、傾聴、相槌の打ち方など</li> <li>4. 応対ロールプレイング1</li> <li>5. 応対ロールプレイング2</li> <li>6. 新聞の社説を読みまとめ、文章を作成する。発表し意見交換をする。</li> <li>7. 看護文献の要約を読みまとめる。発表し意見交換をする。</li> <li>8. 伝達ゲームを通して言葉の重要性を再確認する。</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>講師作成資料</p> <p>【評価方法】</p> <p>レポート、発表：60%</p> <p>授業態度、出席状況：40%</p>					
備考					

授業科目	英語入門																
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間												
<p>【学習目的・授業の概要】 国際化時代に対応出来るコミュニケーション手段としての総合的英語力、特に「聞く」「話す」能力を身につけること。 英語で話すの恥ずかしさまたは偏見を克服し、外国語を楽しむこと。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中・高等学校英語の基礎を用いて簡単な文書を作成する。</li> <li>2. 中・高等学校英語の基礎を用いて聞き力や読力を伸ばし上達させる。</li> <li>3. 自分の考えを英語で上達させる。</li> </ol> <p>【学習内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業は出来るだけ英語で行います。</li> <li>2. 時間割 <ol style="list-style-type: none"> <li>1.) 自己紹介・レベルチェック</li> <li>2.) ABC's 練習 (発音)</li> <li>3.) ABC練習、教室用英語</li> <li>4.) 受付診断書の英語</li> <li>5.) 受付診断書の英語</li> <li>6.) グループ練習</li> <li>7.) グループ練習</li> <li>8.) 発表</li> <li>9.) 発表</li> <li>10.) 病院用英語</li> <li>11.) 病院用英語</li> <li>12.) グループ練習</li> <li>13.) グループ練習</li> <li>14.) 発表</li> <li>15.) 発表</li> </ol> </li> </ol> <p>* 状況によって予定変更あり</p> <p>【教科書・参考資料】 講師作成プリント・ネット資料やプリント</p> <p>【成績評価】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>発表1 =&gt;</td> <td>0.40</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>発表2 =&gt;</td> <td>0.45</td> <td>0.45</td> </tr> <tr> <td>出席率 =&gt;</td> <td>0.15</td> <td>0.15</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>1.00</td> </tr> </table> <p>* 欠席届がない場合、-0.01となります。 ** 発表日に間に合わない場合は先生と話し、後日可能です。</p>						発表1 =>	0.40	0.40	発表2 =>	0.45	0.45	出席率 =>	0.15	0.15		合計	1.00
発表1 =>	0.40	0.40															
発表2 =>	0.45	0.45															
出席率 =>	0.15	0.15															
	合計	1.00															
備考																	

授業科目	倫理学				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>看護倫理とは何かを理解し、その重要性を学ぶ。保健医療福祉現場で看護師が直面する倫理的課題について考察し、看護師としてどのような倫理が求められているかを理解し、基本的姿勢と態度を養う。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理の原則を理解する。</li> <li>2. 看護の対象となる人間の権利を理解する。</li> <li>3. 看護実践に必要な倫理的概念を理解する。（インフォームドコンセント、アドボカシー、アカウンタビリティ、協働、ケアリング）</li> <li>4. 倫理的課題を解決するための理論や倫理原則、思考方法を理解できる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護倫理を学ぶために 倫理学の基本的な考え方（安岡）（講義）</li> <li>2. 生命倫理（安岡）（講義）</li> <li>3. 性と生殖の生命倫理（安岡）（講義）</li> <li>4. 死の生命倫理（安岡）（講義）</li> <li>5. 先端医療と制度をめぐる生命倫理（安岡）（講義）</li> <li>6. 試験(45分)</li> <li>7. 看護実践における倫理的問題へのアプローチ1（西本）（講義）</li> <li>8. 看護実践における倫理的問題へのアプローチ2（西本）（講義）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護倫理（医学書院） 講師作成資料</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験（安岡）70% 課題レポート（西本）30% 授業態度（特にグループワークやディスカッションの参加態度）</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	運動と健康				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>個人や社会における生活習慣等に対する健康や運動の持つ役割に注目し、それらの現象や問題について多角的な視点で生涯にわたり豊かな生活を営むための健康や運動、スポーツの科学的・文化的認識や実践することの重要性を学ぶ。適切な運動実践と自己のライフステージや心身の健康状態に応じた身体活動や健康推進活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを主体的に形成する能力を養う。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の3大運動の意義を理解し、健康維持、増進のための自己管理の方法を習得する。</li> <li>2. 関節の動きを学び、各筋肉の強化、ストレッチ方法を習得する。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康3大運動とは（講義90分）</li> <li>2. 関節の動き、筋肉名（講義90分）</li> <li>3. 有酸素運動とは（実技90分）</li> <li>4. 筋肉トレーニングとは（実技90分）</li> <li>5. ストレッチ（実技90分）</li> <li>6. ペアストレッチ（実技90分）</li> <li>7. 腰痛体操（実技90分）</li> <li>8. 脳トレーニング（実技90分）</li> <li>9. 脳トレーニンググループワーク（実技90分）</li> <li>10. 脳トレーニンググループワーク（実技90分）</li> <li>11. ダンス&amp;ストレッチ（実技90分）</li> <li>12. ダンスグループワーク（実技90分）</li> <li>13. 太極舞（実技90分）</li> <li>14. 試験準備（講義90分）</li> <li>15. 簡単な試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>なし</p> <p>【成績評価】</p> <p>受講態度と積極性、出席状況、試験で総合評価します。</p> <p>【学生へのメッセージ】</p> <p>実技の時は運動のできる服装（Gパン、スリッパ、裸足不可）、水分必須</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目の実務経験あり</p>					

授業科目	人間関係とコミュニケーション(カウンセリング)				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>人間関係・コミュニケーション論の理論を基に心と行動に柔軟性が伴うよう必要とされるコミュニケーションを考え、理解を深める。また、現代社会における自己と他者の関係性を捉えものの見方を再考するとともにカウンセリングの理論と実践の基礎的能力を養う。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者-看護師関係の特徴を理解する。</li> <li>2. 患者-看護師関係のプロセスと対人関係能力について理解する。</li> <li>3. 相互作用を促進するコミュニケーション技法を理解する。</li> <li>4. 自己への気づきを深めることの意義を理解し、その方法を習得する。</li> <li>5. 職場の人間関係とアサーティブコミュニケーションを理解する。</li> <li>6. チーム医療について専門職について求められる関係のあり様と自己を理解する。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間関係のとらえ方</li> <li>2. 社会的相互作用と社会的役割について</li> <li>3. 4.よい人間関係を形成するためのコミュニケーションの基礎 コーチング、アサーティブ・コミュニケーション</li> <li>5.患者-看護師関係のプロセスと対人関係能力</li> <li>6. 人間関係における心理社会的諸理論の概要</li> <li>7. チーム医療における医療従事者間の人間関係</li> <li>8. カウンセリングとは</li> <li>9. カウンセリングの基本的態度</li> <li>10. 相談・面接の技法</li> <li>11. 来談者中心療法 ロジャーズ理論の基本的理解</li> <li>12. 基本的な傾聴の演習、質問と沈黙の取り扱い、反復の演習</li> <li>13. 基本的な共感の演習、感情の反映・応答練習</li> <li>14. 対人援助職のメンタルケア</li> <li>15. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 (医学書院)</p> <p>【成績評価】</p> <p>筆記試験、授業態度 (聴講態度、演習やグループワークの参加態度)</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目の実務経験あり</p>					

授業科目	教育学				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>人間の成長と教育の意義、教育の目的など教育学の理念・基本概念について学び、家庭教育、健康教育・生活指導などの実践的能力を養う。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会化の概念について説明できる</li> <li>2. 社会集団における社会化過程について説明できる</li> <li>3. 社会化をめぐる現代的諸問題について説明できる</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <p>&lt;授業内容&gt;</p> <p>上記の目標達成に向けて、以下に示す事項を内容とする。</p> <p>第1回：本授業の目的・内容・方法，社会化という概念</p> <p>第2回：社会化と教育，個人の主体性</p> <p>第3回：家族集団と社会化（T.パーソンズの社会化論）</p> <p>第4回：現代の家族集団の諸問題</p> <p>第5回：仲間集団・隣人集団と社会化</p> <p>第6回：現代の仲間集団・隣人集団の諸問題</p> <p>第7回：学校集団と社会化（学習指導要領の変遷，後期「社会学」への導入）</p> <p>第8回：試験（小テスト：持込不可，全3問に記述で答える）</p> <p>&lt;授業方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①板書もしくはPowerPointデータを表示しながら，講義形式で進めていく</li> <li>②なお，板書やPowerPointデータの内容を記した資料は配付しない</li> <li>③したがって，各自ルーズリーフ等を準備し，必要に応じて記録（メモをとる）すること</li> <li>④本授業ではたびたび発問する．聞くではなく「考える」というスタンスで授業に臨むこと</li> <li>⑤教科書は，各自で予習・復習に用いること</li> <li>⑥毎回授業終了時に「大福帳」に考えたことを記し提出すること（「大福帳」提出をもって出席と見なす）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>教科書：住田正樹・高島秀樹編著『変動社会と子どもの発達（改訂版）』北樹出版,2018</p> <p>【成績評価】</p> <p>以下2つの側面からの評価を総合して判定する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「大福帳」記入内容：50%</li> <li>②小テストでの得点：50%</li> </ol>					
備考					

授業科目	生活と文化				
開講時期	1 年次 前期	方法・単位	演習・1 単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>高知県の歴史・文化および自然を学び、地域社会の特性や生活文化の特徴を理解することを通じて、健康、病気、医療に関する人々の認識が、地域社会や文化のありようからどのような影響を受けるのかを考えていく。また、健康、病気、医療をめぐる人々の認識の多様性に着目し、地域社会のなかの看護者としての役割について理解を深める。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高知の歴史・文化および自然を学び、地域社会の特性や生活文化の特徴を理解する。</li> <li>2. 地域社会のありようと人々の健康認識との関係に関する洞察を深める。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要（講義）</li> <li>2. 高知の自然と歴史（講義）</li> <li>3. 高知の生活文化 1 沿岸部の生活文化（講義）</li> <li>4. 高知の生活文化 2 山間部の生活文化（講義）</li> <li>5. 高知の生活文化 3 都市部の生活文化（講義）</li> <li>6. 地域社会と健康・医療 1 アルコール消費（講義）</li> <li>7. 地域社会と健康・医療 2 様々な健康意識（講義）</li> <li>8. まとめ（講義）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>参考書</p> <p>飯田淳子・錦織宏（編）『医師・医学生のための人類学・社会学—臨床症例／事例で学ぶ』（ナカニシヤ出版、2021年）</p> <p>高知県立大学文化学部（編）『大学的高知ガイド こだわりの歩き方』（昭和堂、2019年）</p> <p>木村哲也『駐在保健婦の時代 1942-1997』（医学書院、2012年）</p> <p>池田光穂『看護人類学入門』（文化書房博文社、2010年）</p> <p>【成績評価】</p> <p>平常点50%、学期末レポート50%</p>					
備考					

授業科目	情報科学・演習				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>効果的なパーソナルコンピュータ(パソコン)の活用を目指して、情報科学の基礎知識とその応用を学び、日常使われているソフトウェアやインターネットの正しい使用法について学ぶ。各自がパソコンを使って、基礎的なコンピューターリテラシーを習得し、看護現場において必要な情報通信技術に関する知識と技能を身につける。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的なコンピュータ操作に習熟する。</li> <li>2. インターネットを利用した情報収集・基本的なコミュニケーションがとれる。</li> <li>3. コンピュータを用いて、実用的な資料作成ができる。</li> <li>4. 看護に関する情報を検索・調査し、電子的な資料としてまとめることができる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】(演習)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報科学演習とは、パソコンおよびセキュリティー付きUSBの使用法説明</li> <li>2. 3. コンピューターリテラシーとセキュリティー 文献検索とデータ収集方法</li> <li>4. 5. 文字情報の整理(濱田)</li> <li>6. 7. エクセルによる統計解析(濱田)</li> <li>8. 情報の発表とコミュニケーション(濱田)</li> <li>9. 10. Power Pointとプレゼンテーション技法(濱田)</li> <li>11. 12. 13. 課題研究(グループワーク)</li> <li>14. 15. 研究発表会</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護情報学(医学書院)  情報科学リテラシー Windows10 Office2019 対応版(オーム社)</p> <p>【成績評価】</p> <p>授業態度、出席状況：20%  研究発表プレゼンテーション：50%  レポート及び課題：30%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目の実務経験あり</p>					

授業科目	社会人基礎力				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>社会人基礎力は、社会に出てどのような仕事についても求められる必要最小限度の能力である。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の基盤となる学びをリフレクションの要素を取り入れながら「自ら気づき」「自ら育つ」力を養い社会に通用する組織人、専門職業人になるために基礎的な能力を養う。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人として求められるマナーについて理解し、実践できる</li> <li>2. 自己理解、他者理解の必要性について理解しリフレクションの基本的な考え方が理解できる</li> <li>3. コミュニケーション能力をアップする</li> <li>4. グループディスカッション能力をアップする</li> <li>5. 個と集団を意識したコミュニケーション能力をアップする</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人として必要なマナーとは（講義・演習）</li> <li>2. 自己理解・他者理解について（講義・演習）</li> <li>3. リフレクションの基本と実践1（講義・演習）</li> <li>4. リフレクションの基本と実践2（講義・演習）</li> <li>5. 対人関係能力について（講義）</li> <li>6. 自己について（講義）</li> <li>7. 自己表現系について（演習）</li> <li>8. コミュニケーションの実際（演習）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>講師作成資料</p> <p>【成績評価】</p> <p>授業態度、課題・レポート：100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	生化学								
開講時期	1年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間				
【学習目的・授業の概要】									
<p>生体がどのような化合物で成り立っているか、またそれらの化合物がどのようにつくられ壊されて生体の恒常性が保たれているのかを理解する。</p>									
【達成目標】									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体液の量と組成を説明できる。</li> <li>2. 体液の調節（体液量、電解質バランス、浸透圧）を理解する。</li> <li>3. 酸塩基平衡の調節機構を説明できる。</li> <li>4. 体温の調節機構を説明できる。</li> <li>5. 栄養とエネルギー代謝を説明できる。</li> <li>6. 糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル等の物質代謝を概説できる。</li> <li>7. 血糖の調節機構を説明できる。</li> </ol>									
【授業内容及び授業方法】									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体を構成する物質（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生化学の基礎</li> <li>2) 糖質・脂質・たんぱく質</li> <li>3) 核酸・水と無機質／ホルモンと生理活性物質</li> </ol> </li> <li>2. 生体内の物質代謝（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 酵素／ビタミンと補酵素</li> <li>2) 糖質・脂質・たんぱく質代謝</li> <li>3) 核酸代謝</li> </ol> </li> <li>3. 遺伝子情報とその発現（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 遺伝子情報・先天性代謝異常</li> </ol> </li> <li>4. 試験</li> </ol>									
【教科書・参考書等】									
<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学（医学書院）</p>									
【成績評価】									
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">試験</td> <td style="text-align: right;">90%</td> </tr> <tr> <td>授業態度・出席状況</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> </table>						試験	90%	授業態度・出席状況	10%
試験	90%								
授業態度・出席状況	10%								
担当講師の専門領域実務経験									
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり									

授業科目	I. 消化器 個体維持のための物質産生とエネルギー産生を担う消化・吸収・排泄システム				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
<p>経口摂取から始まり、最終的にはアミノ酸など身体構成の部品を作ってゆく上部消化管の消化吸収システムを学習し、各種残渣の排泄経路となる下部消化管についても学習する。消化システムは大きく胃から肛門までの管腔臓器系と肝臓などの実質臓器系に分かれる。各臓器系について解剖から生理について学習し、主要な疾患の病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。</p>					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気の発症機序を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能の「栄養の消化と吸収」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。</li> <li>2. 各疾患（消化器、栄養・代謝、腎、自己免疫疾患）に関して発症機序や病態最近の治療について理解する。</li> <li>3. 各疾患（消化器、栄養・代謝、腎、自己免疫疾患）の病態や治療にともなう生活への影響について理解する。</li> <li>4. 各疾患（消化器、栄養・代謝、腎、自己免疫疾患）の診断や治療に関して看護職としての知っておくべき知識を理解する。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】（講義）					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な消化器疾患の症状と病態生理：吐き気・嘔吐、腹痛、吐血・下血、下痢、便秘、腹部膨満、黄疸（青野）</li> <li>2. 代表的な消化器疾患の理解①：腹部消化管疾患 1（北岡）</li> <li>3. 代表的な消化器疾患の理解②：腹部消化管疾患 2（北岡）</li> <li>4. 代表的な消化器疾患の理解③：腹部消化管疾患 3（岡田）</li> <li>5～7. 代表的な消化器疾患の理解④：肝炎・肝硬変・肝がん・門脈亢進症、肝不全（榮枝）</li> <li>8. 代表的な消化器疾患の理解④：胆石症、胆管・胆嚢がん、膵炎、膵臓がん（大川）</li> <li>9. 代表的な消化器疾患の理解①：外科的治療 1（八木）</li> <li>10. 代表的な消化器疾患の理解②：外科的治療 2（八木）</li> </ol> <p>（※消化器疾患の理解の中で解剖生理学の復習、症状、検査・治療・処置が含まれる。）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11～12. ストマケア（安松）（演習）</li> <li>13～14. 看護の視点で見る症状および消化器で多い検査・治療・処置</li> <li>15. 試験</li> </ol>					
【教科書・参考書】					
<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[5] 消化器（医学書院）</p>					
【成績評価】					
試験・授業態度：100%					
<p>担当講師の専門領域実務経験 職種：担当領域の実務経験あり</p>					

授業科目	Ⅱ.呼吸・循環器、脈管系 1 酸素を取り入れるシステムと細胞代謝に必要な各種物質を循環させるシステム 1				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>この領域では酸素と二酸化炭素を交換する呼吸システムと、細胞の活動に必要な各種物質を循環させる心臓収縮から始まり、末梢まで循環させる循環器系を理解する。この領域では呼吸と循環を一体化させたシステムとしてとらえて解剖・生理を理解・学習するとともに、肺と心臓の主要疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。この領域では心臓から血液を循環させる脈管系の解剖を理解し、部位特異性の主要な疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。また脈管を循環することにより、生体の細胞活動を担う血液やリンパ管に関連する主要な疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気の発症機序を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能の「呼吸と血液のはたらき、血液の循環とその調節」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。</li> <li>2. 生体が生きるために、身体のはたらきをどのように巧みに発達させているのかを理解する。</li> <li>3. 各疾患（呼吸、循環、血液系）に関して発症機序や病態最近の治療について学ぶ。</li> <li>4. 各疾患（呼吸、循環、血液系）の病態や治療にともなう生活への影響について理解する。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】（講義）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸のはたらき 1【呼吸器の構造・内呼吸と外呼吸、呼吸運動及び呼吸器量】（石田）</li> <li>2. 呼吸のはたらき 2【ガス交換とガス運搬】（石田）</li> <li>3. 呼吸のはたらき 4【肺循環】（石田）</li> <li>4. 呼吸のはたらき 3【呼吸運動の調節】（石田）</li> <li>5. 呼吸器 1【代表的な呼吸器疾患の病態・検査・治療①：感染症と感染予防】（石田）</li> <li>6. 呼吸器 2【代表的な呼吸器疾患の病態・検査・治療②：気管支喘息とアレルギー疾患】（石田）</li> <li>7. 呼吸器 3【代表的な呼吸器疾患の病態・検査・治療③：慢性閉塞性肺疾患と吸入抗原による疾患】（石田）</li> <li>8. 呼吸器 4【代表的な呼吸器疾患の病態・検査・治療④：肺癌と胸部腫瘍性疾患】（石田）</li> <li>9. 呼吸器 5【代表的な呼吸器疾患の病態・検査・治療⑤：その他呼吸器疾患（気胸、肺血栓塞栓症、睡眠時無呼吸症候群など）】（石田）</li> <li>10. 呼吸器 6【代表的な呼吸器疾患の病態・検査・治療⑥：呼吸不全、基本処置・管理 まとめ】（石田）</li> <li>11. 血液のはたらき 1【血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板、血沈、凝固、血液型】（上村）</li> <li>12. 血液・造血管 1【血液・造血管疾患の検査・診断と症候・病態生理】（上村）</li> <li>13. 血液・造血管 2【代表的な血液・造血管疾患の理解①：貧血、出血性疾患】（上村）</li> <li>14. 血液・造血管 3【代表的な血液・造血管疾患の理解②：白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫】（上村）</li> <li>15. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）  系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器（医学書院）  系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血管（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験、授業態度(出席状況含む)：100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験 職種：担当領域の実務経験あり</p>					

授業科目	Ⅱ.呼吸・循環器、脈管系2 酸素を取り入れるシステムと細胞代謝に必要な各種物質を循環させるシステム 2				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】 この領域では酸素と二酸化炭素を交換する呼吸システムと、細胞の活動に必要な各種物質を循環させる心臓収縮から始まり、末梢まで循環させる循環器系を理解する。この領域では呼吸と循環を一体化させたシステムとしてとらえて解剖・生理を理解・学習するとともに、肺と心臓の主要疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。この領域では心臓から血液を循環させる脈管系の解剖を理解し、部位特異性の主要な疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。また脈管を循環することにより、生体の細胞活動を担う血液やリンパ管に関連する主要な疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。					
【達成目標】					
1. 病気の発症機序を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能の「呼吸と血液のはたらき、血液の循環とその調節」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。					
2. 生体が生きるために、身体のおくみをどの様に巧妙に発達させているのかを理解する。					
3. 各疾患（呼吸、循環、血液系）に関して発症機序や病態最近の治療について学ぶ。					
4. 各疾患（呼吸、循環、血液系）の病態や治療にともなう生活への影響について理解する。					
【授業内容及び授業方法】（講義）					
1. 循環器系の構成・心臓の構造・心臓の興奮とその伝達、心電図（川井）					
2. 心臓の拍出機能、心臓の収縮、肺循環・体循環（川井）					
3. 血圧・血流量の調節、微小循環（窪川）					
4～5. 循環器疾患の検査と治療・処置（窪川）					
6. 代表的な循環器疾患の症状と病態生理：胸痛、浮腫、チアノーゼ、四肢の疼痛、ショック（土居）					
7～9. 代表的な循環器疾患の理解①：高血圧、心不全、虚血性心疾患（瀧重）					
10. 代表的な循環器疾患の理解②：不整脈（土居）					
11. 代表的な循環器疾患の理解③：弁膜症、心膜炎、心筋症（土居）					
12. 代表的な循環器疾患の理解④：先天性心疾患、動脈系疾患、静脈系疾患、リンパ系疾患（窪川）					
13. 循環器疾患の治療：外科的手術（心臓血管外科）					
14. 循環器疾患の治療：外科的手術（心臓血管外科）					
15. 試験					
【教科書・参考書等】					
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）					
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器（医学書院）					
【成績評価】					
試験、授業態度(出席状況含む)：100%					
担当講師の専門領域実務経験 職種：担当領域の実務経験あり					

授業科目	Ⅲ.内分泌・代謝 体の恒常性（ホメオスタシス）を担うシステム1				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】 体の恒常性は内分泌系、腎臓の排泄・再吸収機能、肺機能など多臓器の働きにより電解質濃度や酸塩基平衡等を保つことで、体内外の環境の変化に対応している。この分野では、恒常性を保つ機序を解剖生理学的に理解し、関連する内分泌臓器の主要疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。また細胞のエネルギー源である血糖のコントロールの生化学的機序を理解し、それに付随する疾患の病態生理・症状・検査・治療について学習する。					
【達成目標】 1. 病気の発症機序を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能の「体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節、外部環境からの防御」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。 2. 生体が生きるために、身体のおくみをどの様に巧妙に発達させているのかを理解する。 3. 内分泌・代謝、自己免疫疾患に関して発症機序や病態最近の治療について学ぶ。 4. 内分泌・代謝、自己免疫疾患の病態や治療にともなう生活への影響について理解する。 5. 内分泌・代謝、自己免疫疾患の診断や治療に関して看護職としての知っておくべき知識を学ぶ。					
【授業内容及び授業方法】（講義） 1. 内臓機能の調節1【自律神経の機能】 2. 内臓機能の調節2【自律神経の構造】 3. 内臓機能の調節3【内分泌系による調節】 4. 内臓機能の調節4【視床下部－下垂体系】 5. 内臓機能の調節5【甲状腺と副甲状腺】 6. 内臓機能の調節6【膵臓、副腎】 7. 内臓機能の調節7【性腺、その他の内分泌腺】 8. 内臓機能の調節8【ホルモン分泌の調節と実際】 9. 内分泌・代謝1【代表的な内分泌・代謝疾患の理解①：下垂体前葉・後葉系疾患】 10. 内分泌・代謝2【代表的な内分泌・代謝疾患の理解②：バセドウ病、甲状腺機能低下症、副腎疾患、多発性内分泌腫瘍症】 11. 内分泌・代謝3【代表的な内分泌・代謝疾患の理解③：糖尿病、脂質異常症】 12. 内分泌・代謝4【代表的な内分泌・代謝疾患の理解④：肥満症とメタボリックシンドローム、高尿酸血症と痛風】 13. 自己免疫1【自己免疫疾患とその機序】 14. 自己免疫2【代表的な自己免疫疾患の理解①：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス（SLE）、シェーグレン症候群】（※内分泌・代謝及び自己免疫疾患の理解の中で症状、検査・治療・処置が含まれる。） 15. 試験					
【教科書・参考書等】 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症（医学書院）					
【成績評価】 試験、授業態度：100%					
担当講師の専門領域実務経験 職種：担当領域の実務経験あり					

授業科目	IV.腎・泌尿器 体の恒常性（ホメオスターシス）を担うシステム2				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>体の恒常性をなうもう一つの臓器である腎臓の解剖、生理機能について学習する。特に、酸塩基平衡や電解質について他の臓器・器官との相互関連について学ぶ。そのほか血圧維持や造血について間接的に関与する腎臓の多面的機能について理解し、その主要疾患について病態生理・症状・治療を学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気の発症機序を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能の「体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節、外部環境からの防御」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。</li> <li>2. 生体が生きるために、身体のしくみをどの様に巧妙に発達させているのかを理解する。</li> <li>3. 腎、自己免疫疾患に関して発症機序や病態最近の治療について学ぶ。</li> <li>4. 腎、自己免疫疾患の病態や治療にともなう生活への影響について理解する。</li> <li>5. 腎、自己免疫疾患の診断や治療に関して看護職としての知っておくべき知識を学ぶ。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】（講義）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体液の調節と尿の生成 1【体液と電解質について】（吉村）       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 体液について</li> <li>2) 体液の組織とpHについて</li> <li>3) ホメオスタシスとその維持について</li> </ol> </li> <li>2～3. 腎・泌尿器 1【代表的な疾患の検査と治療・処置①：一般検尿、腎機能検査、尿細管機能検査、腎移植、透析療法】（吉村）</li> <li>4～7. 腎・泌尿器 2【代表的な腎疾患疾患の理解：腎不全、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎】（吉村）</li> <li>8. 体液の調節と尿の生成 2【男性生殖器と排尿路の位置関係・構造、排尿のメカニズム、尿の正常・異常】（佐竹）</li> <li>9～11. 腎・泌尿器 3【代表的な疾患の検査と治療・処置②：腎機能検査、生検、性・生殖機能検査】（佐竹）</li> <li>12～14. 腎・泌尿器 4【代表的な泌尿器疾患の理解：腎盂腎炎、性感染症、前立腺肥大症、尿路結石症、腫瘍、男性不妊症】（佐竹）※第3章 蓄尿症状、水と電解質の異常を含む</li> <li>15. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院）      系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験、授業態度：100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種：担当領域の実務経験あり</p>					

授業科目	V.感覚器・脳神経系 情報取得、統合・判断、目的行動のシステム1				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>ヒトは動く存在(homo mobilis)であり、各臓器経路で種々の情報を取得して大脳に集め、大脳はそれを統合・判断して神経系を通じて運動器に伝達し目的行動を行う。各種情報を集める器官と統合・判断して運動器に伝えるシステムの解剖・生理を理解し、情報の流れの中での主要疾患について病態生理・症状・治療について学習する。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気の発症機序を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能の「情報の受容と処理」を系統的に学び、人間の健康な状態を理解する。</li> <li>2. 脳神経系に関して発症機序や病態最近の治療について学ぶ。</li> <li>3. 脳神経系の病態や治療にともなう生活への影響について理解する。</li> <li>4. 脳神経系の診断や治療に関して看護職としての知っておくべき知識を学ぶ。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】（講義）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報の受容と処理1【神経系の構造と機能(1)】（山崎）</li> <li>2. 情報の受容と処理2【神経系の構造と機能(2)】（山崎）</li> <li>3. 情報の受容と処理5【脳の高次機能】（山崎）</li> <li>4. 情報の受容と処理6【運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路】（山崎）</li> <li>5. 脳・神経の主な症状と病態生理1【意識障害】（山崎）</li> <li>6. 脳・神経の主な症状と病態生理2【運動機能障害】（山崎）</li> <li>7. 脳・神経の主な症状と病態生理3【感覚機能障害】（山崎）</li> <li>8. 脳・神経の主な症状と病態生理4【頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア】（山崎）</li> <li>9. 脳・神経1【脳・神経疾患の代表的な検査と治療・処置】（林）</li> <li>10. 脳・神経2【代表的な脳・神経疾患の理解①：脳血管障害、脳腫瘍】（林）</li> <li>11. 脳・神経3【代表的な脳・神経疾患の理解②：頭部外傷、水頭症】（林）</li> <li>12. 脳・神経4【代表的な脳・神経疾患の理解③：ギラン-バレー症候群、重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、ALS】（山崎）</li> <li>13. 脳・神経5【代表的な脳・神経疾患の理解④：多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、脳炎、髄膜炎】（山崎）</li> <li>14. 脳・神経6【代表的な脳・神経疾患の理解⑤：中毒性疾患、認知症】</li> <li>15. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験、授業態度：100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種：担当領域の実務経験あり</p>					

授業科目	VI.運動器（整形外科） 情報取得、統合・判断、目的行動のシステム2				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>体を動かすシステムの中で実際の運動を担う器管である骨、関節、筋肉について解剖、生理について理解し、主要な運動器疾患について病態生理・症状・治療について学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気の発症機序を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能の「身体の支持と運動」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。</li> <li>2. 運動器系に関して発症機序や病態最近の治療について学ぶ。</li> <li>3. 運動器系の病態や治療にともなう生活への影響について理解する。</li> <li>4. 運動器系の診断や治療に関して看護職としての知っておくべき知識を学ぶ。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】（講義）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体の支持と運動1【骨格とはどのようなものか】</li> <li>2. 身体の支持と運動2【骨の連結】</li> <li>3. 身体の支持と運動3【骨格筋】</li> <li>4. 身体の支持と運動4【体幹部の骨格と筋】</li> <li>5. 身体の支持と運動5【上肢の骨格と筋】</li> <li>6. 身体の支持と運動6【下肢の骨格と筋】</li> <li>7. 身体の支持と運動7【頭頸部の骨格と筋】</li> <li>8. 身体の支持と運動8【筋の収縮】</li> <li>9. 運動器1【代表的な運動器疾患の検査と治療・処置】</li> <li>10～11. 運動器2【代表的な運動器疾患の理解①：骨折】</li> <li>12. 運動器3【代表的な運動器疾患の理解②：脊髄損傷、末梢神経損傷】</li> <li>13. 運動器4【代表的な運動器疾患の理解③：変形性関節症、骨腫瘍】</li> <li>14. 運動器5【代表的な運動器疾患の理解：腰椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、側彎症】 ※運動器では、関節リウマチ、痛風、進行性筋ジストロフィー、ALSは除く。</li> <li>15. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[10] 運動器(医学書院)</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験・授業態度：100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験 職種：担当領域の実務経験あり</p>					

授業科目	VII.皮膚・免疫系 体を守るシステム・女性生殖器				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>ヒトは生命を維持し種をつないでいく中で、種々の環境要因の侵襲から体をから守るシステムを作ってきた。物理的侵襲については皮膚や粘膜が大きな役割を果たし、身体内では主として白血球及びその生産物質が防御的に働いている。これら物理的、化学的防御システムの解剖・生理を理解し、この分野の主要疾患について病態生理・症状・治療について学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気の発症機序を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能の「体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節、外部環境からの防御」を系統的に学び人間の健康な状態を理解する。</li> <li>2. 各疾患（女性生殖器、感覚器系）に関して発症機序や病態最近の治療について学ぶ。</li> <li>3. 各疾患（女性生殖器、感覚器系）の診断や治療に関して看護職としての知っておくべき知識を学ぶ。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】（講義）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部環境からの防御【皮膚の構造と機能】（赤松）</li> <li>2. 外部環境からの防御【生体の防御機構、体温とその調節】（赤松）</li> <li>3. 4. 感覚器：皮膚（赤松）</li> <li>1) 代表的な疾患の理解（検査・治療を含む） <ol style="list-style-type: none"> <li>①アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬 ②熱傷 ③悪性黒色腫 ④白癬、単純疱疹、带状疱疹、疥癬</li> </ol> </li> <li>5. スキンケアについて（安松）</li> <li>6. 7.女性生殖器【乳房の疾患】（田中）</li> <li>8. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院）  系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚（医学書院）  系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験、授業態度：100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種：担当領域の実務経験あり</p>					

授業科目	病理学				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>人体組織における正常機能を知り、病的状態の原因・発生機序、それらに対する体の反応などを理解する。</p> <p>【達成目標】</p> <p>あらゆる病的状態のなりたちを自らで考え、適切な用語で説明することが出来る。</p> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病理学とは <ul style="list-style-type: none"> <li>・病理検査室のお話、病理学について</li> <li>・看護師と病理の関わり</li> <li>・健常人のからだについて</li> </ul> </li> <li>2. 病因論、先天性異常 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の原因（外因、内因）</li> <li>・遺伝、染色体異常について</li> </ul> </li> <li>3. 細胞や組織の障害・修復 <ul style="list-style-type: none"> <li>・退行性病変</li> <li>・進行性病変</li> </ul> </li> <li>4. 循環障害 <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器系の概要</li> <li>・全身の循環障害</li> <li>・局所の循環障害</li> </ul> </li> <li>5. 炎症と免疫、感染症 <ul style="list-style-type: none"> <li>・炎症とは</li> <li>・免疫のしくみ</li> <li>・アレルギー</li> <li>・臓器移植</li> <li>・感染症について</li> </ul> </li> <li>6. 腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> <li>・腫瘍とは</li> <li>・腫瘍の発生機序、発生因子</li> <li>・腫瘍の分類・細胞変化・悪性度</li> <li>・転移について</li> </ul> </li> <li>7. 老化と死 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各臓器の加齢変化</li> </ul> </li> <li>8. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進① 病理学 （医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験、授業態度</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	微生物学				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>病原微生物の種類・特徴・病原性・感染予防の方法ならびに生体防御機構（免疫）について学習する。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物による感染症の種類について理解する。</li> <li>2. 微生物による感染機序について理解する。</li> <li>3. 微生物による感染防御について理解する。</li> <li>4. 人体の免疫・アレルギーのメカニズムについて理解する。</li> </ol> <p>【授業概要】</p> <p>病原微生物の種類と特徴について学ぶ。  病原微生物の感染様式、病原性、診断、治療について学ぶ。  人体防御機構としての免疫の仕組みについて学ぶ。  免疫異常としてのアレルギーについて学ぶ。</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回 ヒトと感染症の歴史(石田)  感染症の基礎、感染症の脅威  人に感染症を起こす微生物：ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫</p> <p>第2回 感染の機構と感染症の種類（石田）  新興感染症、再興感染症、食品媒介感染症、輸入感染症  感染症法：一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症</p> <p>第3回 感染症予防と感染制御対策（石田）  滅菌、消毒、化学療法、院内感染、抗生物質耐性菌</p> <p>第4回 免疫と生体防御機構1（吾妻）  自然免疫：骨髄系細胞、白血球、マクロファージ、補体  獲得免疫：リンパ系細胞、リンパ球、T細胞、B細胞、形質細胞</p> <p>第5回 免疫と生体防御機構2（吾妻）  ワクチン：生ワクチン、不活性化ワクチン、トキシイド</p> <p>第6回 免疫と免疫病（アレルギー）1（吾妻）  I型アレルギー、II型アレルギー、III型アレルギー、IV型アレルギー  アレルギー疾患：アナフィラキシー、気管支喘息、自己免疫性貧血、接触性皮炎</p> <p>第7回 免疫と免疫病（自己免疫疾患）2（吾妻）  グッドパスチャー症候群、甲状腺機能亢進症、血清病、全身性エリテマトーデス、自己免疫性貧血</p> <p>第8回 試験</p> <p>【評価方法】</p> <p>試験、レポート、授業態度、出席状況などにより評価する。</p> <p>【使用テキスト】</p> <p>系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進4 微生物学（医学書院）</p> <p>参考書：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新体系看護学全書 成人看護学9 感染症 アレルギー・免疫 膠原病、メジカルフレンド社</li> <li>2. わかる！身につく！ 病原体・感染・免疫（改訂3版） 藤本 秀士編著 日野郁子・小島夫美子著 南山堂</li> </ol>					
備考					

授業科目	医学概論				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>生と死、発育と老化、健康と病気、喜びと悲しみなど希望と絶望が交互に繰り返される医療の現場に踏み込む前に、医療はどのような起源を持ち、科学や科学の進歩と共にその内容がどのように変遷してきたかを学ぶ。また、細分化が進み、診断、治療とも高度化している現代医療の中で、チーム医療の一員として働く看護師の仕事内容、働き方を学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生と死、健康と未病などを通じて広く健康観と死生観を学ぶ</li> <li>2. 感染症対策から始まった医療が、周辺技術の発達でどのように変遷してきたかを学ぶ</li> <li>3. 医療の歴史の中で看護師の役割がどのように変化してきたかを学ぶ</li> <li>4. 現代医療の概要を学ぶ</li> <li>5. 高度先進医療、人口動態の変化などを含めた今後の医療の在り方・方向性を学ぶ</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <p>次の項目について視聴覚機材を用いた授業を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療と看護の原点について～医療コミュニケーションを中心に</li> <li>2. 感染症から始まった医療の歴史</li> <li>3. 療養環境と医療現場で働く人たち～医療と健康を支える人たち～</li> <li>4. 現代医療の主要な領域について <ol style="list-style-type: none"> <li>①救急医療・集中医療</li> <li>②周産期医療・新生児医療</li> <li>③癌対策</li> <li>④精神医療</li> <li>⑤認知症</li> </ol> </li> <li>5. 診断学と主要な各種検査について</li> <li>6. 治療学の変遷からみた看護師の役割</li> <li>7. 高度医療について～現状と問題点～</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 (医学書院)</p> <p>【成績評価】</p> <p>レポート提出</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	臨床栄養学								
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間				
【学習目的・授業の概要】									
<p>栄養に関する基礎的知識を学び、病態や栄養状態に基づいた適切な栄養マネジメントについて理解を深め、栄養療法の重要性を理解する。</p>									
【達成目標】									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養とエネルギー代謝を説明できる。</li> <li>2. 糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル等の物質代謝を概説できる。</li> <li>3. 血糖の調節機構を説明できる。</li> <li>4. 糖代謝異常の病因・病態を説明できる。</li> <li>5. タンパク質・アミノ酸代謝異常の病因・病態を説明できる。</li> <li>6. 脂質代謝異常の病因・病態を説明できる。</li> <li>7. 核酸・ヌクレオチド代謝異常の病因・病態を説明できる。</li> <li>8. 無機質代謝異常の病因・病態を説明できる。</li> <li>9. 疾病の診断に用いる検査と治療について理解できる。</li> <li>10. 食事療法を概説できる。</li> </ol>									
【授業内容及び授業方法】									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養と看護（講義）</li> <li>2. 栄養状態の把握（栄養アセスメント）（講義）</li> <li>3. 主な栄養素の種類と機能（講義）</li> <li>4. エネルギー代謝（講義）</li> <li>5. 栄養素の消化と吸収（講義）</li> <li>6. 栄養素の体内代謝（講義）</li> <li>7. ライフステージ別栄養摂取（講義）</li> <li>8. 栄養サポートプラン（講義）</li> <li>9. 栄養状態のモニタリング（講義）</li> <li>10. 病院食の種類と特別治療食（講義）</li> <li>11. 特殊病態食の種類と機能（講義）</li> <li>12. 特殊用途食品と健康補助食品（講義）</li> <li>13. 静脈・経腸栄養法（講義）</li> <li>14. 健康づくりと食生活・NSTにおけるチーム医療と看護（講義）</li> <li>15. 試験</li> </ol>									
【教科書・参考書等】									
<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（3） 栄養学（医学書院）  系統看護学講座 別巻 栄養食事療法</p>									
【成績評価】									
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">試験</td> <td style="text-align: right;">90%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> </table>						試験	90%	授業態度	10%
試験	90%								
授業態度	10%								
担当講師の専門領域実務経験									
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり									

授業科目	薬理学				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>薬物の特性を知り、薬物作用に関する基礎的事項を理解し、薬物の作用と病態との関連性、薬物相互作用や副作用を学ぶ。また、薬物の管理について理解する。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物及び薬物投与による人間の反応物の作用点を説明できる。</li> <li>2. 薬理作用を規定する要因（用量と反応、親和性等）や薬物動態を説明できる</li> <li>3. 薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。</li> <li>4. 薬物相互作用とポリファーマシーについて概説できる。</li> <li>5. 薬物の投与方法の違いによる特徴と看護援助を説明できる。</li> <li>6. 小児期、周産期、老年期、臓器障害、精神・心身の障害時における薬物投与の注意点と看護援助を説明できる。</li> <li>7. 主な治療薬の作用、機序、適応、有害事象及び看護援助を説明できる。</li> <li>8. 薬物の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。</li> <li>9. 薬物管理の基本的知識と注意事項を説明できる。</li> <li>10. 薬害について概説できる。</li> <li>11. 薬剤の職業性ばく露について説明できる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学を学ぶにあたって（講義）</li> <li>2. 薬理学の基礎知識 1（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 薬が作用する仕組み（薬力学）， 2) 薬の体内の挙動（薬物動態学）</li> </ol> </li> <li>3. 薬理学の基礎知識 2（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 薬物相互作用， 4) 薬効の個人差に影響する因子， 5) 薬物使用の有益性と危険性</li> </ol> </li> <li>4. 薬理学の基礎知識 3（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>6) 薬と法律</li> </ol> </li> <li>5. 抗感染薬・抗ガン薬（講義）</li> <li>6. 免疫治療薬・抗アレルギー薬（講義）</li> <li>7. 抗炎症薬・末梢での神経活動に作用する薬物（講義）</li> <li>8. 中枢神経系に作用する薬物（講義）</li> <li>9. 心臓・神経系に作用する薬物（講義）</li> <li>10. 呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬物（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 物質代謝に作用する薬物（講義）</li> <li>12. 皮膚科用薬・眼科用薬（講義）</li> <li>13. 救急の際に使用する薬物（講義）</li> <li>14. 漢方薬、消毒薬、輸液製剤・輸血剤、看護業務に必要な薬の知識（講義）</li> <li>15. 試験</li> </ol> </li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 薬理学（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験 90% 授業態度 10%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目の実務経験あり</p>					

授業科目	医療と安全				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
【学習目的・授業の概要】					
医療安全に関する定義や理念並びに主な概念と歴史について学ぶ。また、医療や看護におけるリスクや有害事象の実態と予防方法を学ぶと共に、国や組織における医療安全管理体制と安全文化形成に向けた取り組みについて学ぶ。					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全保障のための社会システム・院内システムにおけるリスクマネジメントの考え方とその取り組みを学び、医療安全管理の重要性を理解する。</li> <li>2. ケア実践に伴い、発生しやすい事故事例について学び、医療の質について考える。</li> <li>3. 医療安全管理と医療の質との関連について学び、その評価方法について理解する。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全を学ぶ意義と事故防止の考え方（講義）</li> <li>2. 診療の補助の事故防止（Ⅰ）患者に投与する業務における事故防止（講義）</li> <li>3. 診療の補助の事故防止（Ⅱ）継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止（講義）</li> <li>4. 療養の世話における事故防止（講義）</li> <li>5. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因（講義）</li> <li>6. 医療安全とコミュニケーション（講義）</li> <li>7. 組織的な安全管理体制への取り組みと我が国の医療安全対策の展望(演習)</li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 (医学書院)					
【成績評価】					
試験（授業態度含む）100%					
担当講師の専門領域実務経験 職種：担当領域の実務経験あり					

授業科目	看護学概論 I				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
看護の全体像を理解するための基本概念や社会における看護の機能と役割について理解し、人々の健康・生活へのアプローチを考えるための基礎的な知識を学ぶ。					
【達成目標】					
1. 看護の基本概念である「人間」「健康」「環境」「看護」について理解する。					
2. 看護の歴史的な変遷や社会における看護の機能と役割について理解する。					
【授業内容及び授業方法】					
1. 看護学を学ぶにあたって、看護の歴史的変遷（講義）					
2. 看護の対象である人間理解①（講義・演習）					
3. 看護の対象である人間理解②（講義・演習）					
4. 看護の対象である人間理解③（講義・演習）					
5. 生活者としての健康のとらえ方①（講義・演習）					
6. 生活者としての健康のとらえ方②（講義・演習）					
7. 生活者としての健康のとらえ方③（講義・演習）					
8. 看護とは－看護の定義、看護独自の機能（講義）					
9. 看護とは－看護理論から見る看護の本質①（講義）					
10. 看護とは－看護理論から見る看護の本質②（講義）					
11. 看護とは－職能団体からみる看護の定義（講義）					
12. 看護の機能と役割、看護の活動領域（国際化、災害における看護）（講義）					
13. 看護における倫理①（講義、演習）					
14. 看護における倫理②（講義、演習）					
15. 科目終了試験					
【教科書・参考図書等】					
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論（医学書院）					
フローレンス・ナイティンゲール 看護覚え書き（現代社）					
看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）					
看護者の基本的責務（日本看護協会出版会）					
【成績評価】					
試験 60%					
課題 20%					
授業態度 20%					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	看護学概論Ⅱ				
開講時期	1 年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>看護実践のための提供システム、看護の多様な活動の場について理解するとともに、看護実践の基礎となる代表的な看護理論について基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護サービスが提供されている場や看護師と協働する職種の役割及び協働の必要性を理解する。</li> <li>2. 看護専門職についての認識を深め、広がる看護の活動について理解する。</li> <li>3. 看護実践の基礎となる主な看護理論の意義とその発展過程について理解する。</li> <li>4. 看護理論家の理論を構成するメタパラダイムおよび主要概念についてまとめ・発表・討議する。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護理論の意義と特徴（講義）</li> <li>2. 看護理論の発展過程（講義）</li> <li>3. 発達モデル、相互作用モデル（講義）</li> <li>4～6 看護理論についてのグループワーク（演習） ヴァージニア・ヘンダーソン、ヒルデガード・E.ペプロウ、ドロセア E.オレム、シスター・カリスト・ロイ、ジョイス・トレベルビー、ローズ・リゾ・パースイ、マーガレット・ジーン・ハーマン・ワトソン等</li> <li>7. 8. 現象学プレゼンテーション、看護理論総括</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論（医学書院）  看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）  看護者の基本的責務（日本看護協会出版会）  看護理論（南江堂）</p> <p>【成績評価】</p> <p>レポート 50%  授業態度 10%  プレゼンテーション 40%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	ヘルスアセスメント				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>人が本来持っている生活のリズムを維持できるように身体的、心理的、社会的な視点からアセスメントする力を身につける。看護実践に活かすヘルスアセスメント（フィジカルアセスメント含む）の知識と技術、検査の読み方等を身につける。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントの目的と根拠を理解したうえで観察技法を習得する。</li> <li>解剖生理学や病態生理学の知識を踏まえ、対象者の健康状態を把握するために必要な身体の観察の知識と技法を習得し、正常と異常の区別ができるようになる。</li> <li>治療・処置の必要な対象者のヘルスアセスメント（フィジカルアセスメント含む）の方法を説明できる。</li> <li>対象者の身体的、心理的、社会的な背景を念頭に身体所見及び症状、検査結果などからアセスメントすることができる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】（★事例は、身体的・心理的・社会的状況を加味）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ヘルスアセスメントの意義と目的 2) 問診、視診、触診、打診、聴診とは（講義・腹痛の事例を用いた問診演習）</li> <li>1) 意識レベル・意識障害/バイタルサインのアセスメント（事例を用いたグループワーク） 2) フィジカルアセスメントの基本技術（講義・演習〈視診・触診・打診・聴診〉）</li> <li>肺（呼吸器系）のアセスメント1（講義・DVD）</li> <li>肺（呼吸器系）のアセスメント2（呼吸音聴取部位と正常・異常呼吸音聴取演習）</li> <li>肺（呼吸器系）のアセスメント3（事例を用いたグループワーク）</li> <li>心臓・血管系のアセスメント1（講義・DVD）</li> <li>心臓・血管系のアセスメント2（心音の聴取部位と異常心音の聴取演習・浮腫の見方）</li> <li>心臓・血管系のアセスメント3（事例を用いたグループワーク）</li> <li>腹部（消化器系）のアセスメント（講義・腹部のフィジカルエグザミネーション演習）</li> <li>乳房・腋窩・生殖器のアセスメント・筋骨格系のアセスメント（講義・演習）</li> <li>神経・感覚系（脳神経）のアセスメント1（講義・DVD）</li> <li>神経・感覚系（脳神経）のアセスメント2（瞳孔の見方・神経学的所見演習）</li> <li>神経・感覚系（脳神経）のアセスメント3（事例を用いたグループワーク）</li> <li>系統別アセスメントと頭尾法の統合（講義・事例を用いたグループワーク）</li> <li>最終試験（筆記）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 講師が準備した資料</p> <p>【成績評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆記試験70%</li> <li>演習・グループワーク(積極性・協調性・技術習得) 20%</li> <li>授業態度(積極性、出席状況含む) 10%</li> </ul>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	家族看護学				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>看護における家族の役割は大きく、家族の援助なしに患者・クライアントのケアは成立しない。我が国の家族役割の歴史の変遷や看護理論を理解するとともに、家族看護における看護者の役割や家族アセスメント、家族の関係性への支援方法などを習得する。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者・家族を看護の対象とし看護活動を実践するための基礎的知識を理解することができる。</li> <li>2. あらゆる状況における患者・家族への看護活動を実践するための方法論を考えることができる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族看護学とは</li> <li>2.3 家族エンパワーメントモデル</li> <li>4. 援助関係の形成が困難な家族への関わり</li> <li>5. 家族アセスメントと家族像の形成</li> <li>6. 事例アセスメント（脳梗塞）グループワーク</li> <li>7. 事例発表</li> <li>8. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】 講師配布資料：以下参考文献</p> <p>野嶋佐由美監修：家族エンパワーメントをもたらす看護実践,へるす出版,2005</p> <p>鈴木和子・渡辺裕子他：家族看護学 理論と実践,日本看護協会出版会,第5版,2019</p> <p>Marilyn M.Friedman. 野嶋佐由美監訳：家族看護学 理論とアセスメント,へるす出版,1993</p> <p>山崎あけみ・原礼子編集：家族看護学,南江堂,第2版,2019</p> <p>法橋尚宏編著：新しい家族看護学 理論・実践・研究,メヂカルフレンド社,</p> <p>【評価方法】</p> <p>試験・グループワークへの参加度・授業態度・出欠状況</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	看護過程演習				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】 より良い看護を実践するための看護過程の展開とは何か、その意味と必要性が理解できる。そして、看護過程の各段階について内容が理解できるように、事例を用いながら必要な判断力と表現力を養う</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の展開とは何か、その意義と必要性について説明できる。</li> <li>2. 看護過程を構成する要素であるアセスメント、看護問題、看護計画、実施、評価の内容が説明できる。</li> <li>3. 事例を用いて、その事例の看護の必要性を判断し、必要な看護を計画し、実施・評価できる</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程とは何か、意味と必要性、看護過程展開の基礎となる力（講義・演習）</li> <li>2. 3. 事例をもとにした看護過程の展開 1・2【アセスメント：情報の収集】（講義・演習）</li> <li>4. 5. 事例をもとにした看護過程の展開 1・2【アセスメント：全体像の把握】（講義・演習）</li> <li>6. 7. 事例をもとにした看護過程の展開 1・2【看護問題】（講義・演習）</li> <li>8. 9. 事例をもとにした看護過程の展開 1・2【看護計画】（講義・演習）</li> <li>10. 11. 事例をもとにした看護過程の展開 1・2【実施】（講義・演習）</li> <li>12. 13. 事例をもとにした看護過程の展開 1・2【評価】（講義・演習）</li> <li>14. 15. 事例をもとにした看護過程の展開まとめ 1・2（試験）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）</p> <p>【成績評価】 課題内容・授業への取り組み姿勢（100%）</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験 職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	看護研究 I				
開講時期	1 年次 前期	方法・単位	演習・1 単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>普段から問題意識をもつ必要性を理解し、看護研究についての基礎的な知識を学ぶ。そして、必要な文献や情報を検索し、関心のあるテーマに関する研究論文を読むことを通して、看護における研究の役割・意義について考える。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の意義・必要性、看護学の発展に果たす役割について理解できる。</li> <li>2. 研究方法の種類とその特徴、看護研究を実施する一連のプロセスについて理解できる。</li> <li>3. 文献検索方法、文献の活用の仕方について説明できる。</li> <li>4. 看護研究で用いられる研究デザインと各々の特徴を理解できる。</li> <li>5. 看護研究の遂行に伴う研究対象者の権利擁護や個人情報保護の重要性、研究上生じやすい倫理的問題が理解できる。</li> <li>6. 量的な研究方法と質的な研究方法それぞれについて、研究プロセスについて理解できる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文章の読み方（講義）</li> <li>2. レポートの書き方（講義・演習）</li> <li>3・4. 調べたいものの探し方</li> <li>5. 看護研究とは（講義・演習）</li> <li>6. 研究の概略（さまざまな研究手法とその役割）（講義）</li> <li>7・8. 研究方法（講義・演習）</li> <li>9・10. 文献レビュー（講義・演習）</li> <li>11. グラフと表の書き方（演習）</li> <li>12. 研究計画の書き方（演習）</li> <li>13. 研究と倫理（講義）</li> <li>14・15. 学会、もしくは看護研究発表会に参加</li> </ol> <p>【教科書】</p> <p>系統別看護学講座 看護研究</p> <p>【参考書等】</p> <p>山田寛 井上正隆 著：看護学生・看護職が知りたい統計学－問題解決への道しるべー（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験（授業内）、授業態度、出席状況などから総合的に評価する。</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	基礎看護学方法論 I				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>看護を实践する基本となる看護技術とは何か、その概念を理解するとともに、看護技術を身につけるための学習方法を学ぶ。また、人の健康状態を多角的に捉えることを目指して、バイタルサイン測定・コミュニケーションの技術を身につける。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術は看護者の能力が反映されていることを理解する。</li> <li>2. 看護技術を身につけるには、原理を知り、繰り返すことが必要であることを理解する。</li> <li>3. 感染の定義を理解し、感染防止の技術を身につける。</li> <li>4. 看護師と患者の意志疎通の基本となるコミュニケーションの技術を身につける。</li> <li>5. バイタルサインの重要性と測定の意義を理解し、バイタルサインを正しく測定できる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2. 基礎看護学方法論演習ガイダンス(看護技術とは何か、看護技術の学習方法、実習室オリエンテーション)</li> <li>3. 4. 『感染予防の技術 I』感染とその予防の基礎知識と標準予防策の実際 (演習)</li> <li>5. 6. 『感染予防の技術 I』感染経路別予防策の基礎知識と感染性廃棄物の取り扱いの実際 (演習)</li> <li>7. 8. 看護におけるコミュニケーションの意義と実際 (演習)       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 話し方、聞き方体験</li> <li>2) 話し方、聞き方体験のまとめ</li> </ol> </li> <li>9. 10. コミュニケーションの実際 (演習)</li> <li>11. 12. バイタルサイン測定の基礎知識 (体温、脈拍、呼吸、血圧、身体計測) (演習)</li> <li>13. バイタルサイン測定の実際 (事例展開) (演習)</li> <li>14. バイタルサイン測定に関する技術 (技術試験)</li> <li>15. 感染予防・コミュニケーション・バイタルサイン測定に関する知識試験 (筆記試験)</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院)        系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ (医学書院)</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験－筆記 (30%)、技術 (60%)、課題・授業態度・出席状況 (10%)</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	基礎看護学方法論Ⅱ				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>看護は人間の生命に関わる仕事であることから、患者の安全と安楽を考え援助することが基本となる。安全・安楽の基本となる知識を理解して必要な援助技術を身につける。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての環境の意味を理解し、病室環境を整える技術を身につける。</li> <li>2. 療養の場における安全・安楽を疎外する因子を理解し、安全・安楽への援助技術を身につける。</li> <li>3. ボディメカニクスの原理を活かして体位交換の援助の方法を身につける。</li> <li>4. さまざまな体位とその目的を理解できる。</li> <li>5. 車椅子やストレッチャーについて理解し、移乗・移送の方法を身につける。</li> <li>6. 移動の基本と移動を補助する器具について理解し、杖歩行の援助の方法を身につける。</li> <li>7. 移動について、実施した援助を振り返り、安全・安楽に配慮した援助を考えることができる。</li> <li>8. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠に障害を持つ患者への援助を理解する。</li> </ol> <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2. 体の使い方（ボディメカニクス）とベッドメイキング</li> <li>3. 4. 基本的活動の基礎知識（演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 体位（基本的体位、診療のための特殊体位）</li> <li>2) 体位変換</li> </ol> </li> <li>5. 6. 活動援助の実際（移動・移送・移乗）（演習） <p>【ストレッチャー】【車椅子】【歩行介助】</p> </li> <li>7. 睡眠と休息援助の基礎知識（グループワーク） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 睡眠と休息援助の基礎知識</li> <li>2) 睡眠と休息援助の実際</li> </ol> </li> <li>8. 9. 生活環境とは何か、病室環境を構成する因子の発見（演習）</li> <li>10. 生活の場における安全・安楽の意義と実際（グループワーク・演習）</li> <li>11. 療養生活の場における安全・安楽を阻害する因子の発見と援助技術（グループワーク）</li> <li>12. 療養の場における身体安楽促進への援助技術（演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 褥法、安楽物品の使い方</li> <li>2) 事例展開</li> </ol> </li> <li>13. 生活環境調整ならびにベッドメイキングに関する技術（技術試験）</li> <li>14. 体位変換・活動の援助に関する技術（技術試験）</li> <li>15. 活動・休息・安全・安楽に関する知識試験（筆記試験）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院）  系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験－筆記（30％）、技術（60％）、課題・授業態度・出席状況（10％）</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	基礎看護学方法論Ⅲ																												
開講時期	1年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間																								
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>清潔は人間の基本的な欲求の充足に必要な日常生活援助であることを理解し、対象への配慮を考えながら具体的な援助技術を身につける。また感染予防の基礎知識を身につけ、患者の安全を考え実際の援助技術を身につける。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 皮膚と粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を説明できる。</li> <li>2. 対象に応じた清潔援助方法を理解し、それぞれの清潔の技術を身につける。</li> <li>3. 衣生活の基礎知識を理解し、衣生活を整える技術を身につける。</li> <li>4. 診療の補助に関わる感染予防への技術を身につける。</li> <li>5. 皮膚の構造と機能、創傷の治癒過程を理解し、創傷処置の技術を身につける。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <table border="0"> <tr> <td>『清潔・衣生活』(演習)</td> <td>『感染予防の技術Ⅱ』(演習)</td> </tr> <tr> <td>1. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【足浴】</td> <td>10. 11、感染予防の援助技術の実際 1) 消毒の技術</td> </tr> <tr> <td>2. 3. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【洗髪・整容】</td> <td>2) 滅菌物（鉗子・滅菌包）の取り扱い</td> </tr> <tr> <td>4. 5. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【全身清拭】</td> <td>3) 滅菌手袋の装着</td> </tr> <tr> <td>6. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【陰部洗浄】</td> <td>4) ガウンテクニック</td> </tr> <tr> <td>7. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【リネン交換・寝衣交換】</td> <td>5) 滅菌物品の取り扱い</td> </tr> <tr> <td>8. 事例展開</td> <td>12. 創傷管理技術の基礎知識と援助技術 1) 創傷治癒のための援助</td> </tr> <tr> <td>9. 清潔・衣生活の技術試験</td> <td>2) 創の洗浄、消毒、保護</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3) 包帯法</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13. 事例展開</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 感染予防の技術の技術試験</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 清潔・感染に関する知識試験（筆記試験）</td> </tr> </table> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院）  系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験－筆記（30％）、技術（60％）、課題・授業態度・出席状況（10％）</p>						『清潔・衣生活』(演習)	『感染予防の技術Ⅱ』(演習)	1. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【足浴】	10. 11、感染予防の援助技術の実際 1) 消毒の技術	2. 3. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【洗髪・整容】	2) 滅菌物（鉗子・滅菌包）の取り扱い	4. 5. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【全身清拭】	3) 滅菌手袋の装着	6. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【陰部洗浄】	4) ガウンテクニック	7. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【リネン交換・寝衣交換】	5) 滅菌物品の取り扱い	8. 事例展開	12. 創傷管理技術の基礎知識と援助技術 1) 創傷治癒のための援助	9. 清潔・衣生活の技術試験	2) 創の洗浄、消毒、保護		3) 包帯法		13. 事例展開		14. 感染予防の技術の技術試験		15. 清潔・感染に関する知識試験（筆記試験）
『清潔・衣生活』(演習)	『感染予防の技術Ⅱ』(演習)																												
1. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【足浴】	10. 11、感染予防の援助技術の実際 1) 消毒の技術																												
2. 3. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【洗髪・整容】	2) 滅菌物（鉗子・滅菌包）の取り扱い																												
4. 5. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【全身清拭】	3) 滅菌手袋の装着																												
6. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【陰部洗浄】	4) ガウンテクニック																												
7. 清潔・衣生活の援助の基礎知識と実際 【リネン交換・寝衣交換】	5) 滅菌物品の取り扱い																												
8. 事例展開	12. 創傷管理技術の基礎知識と援助技術 1) 創傷治癒のための援助																												
9. 清潔・衣生活の技術試験	2) 創の洗浄、消毒、保護																												
	3) 包帯法																												
	13. 事例展開																												
	14. 感染予防の技術の技術試験																												
	15. 清潔・感染に関する知識試験（筆記試験）																												
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>																													

授業科目	基礎看護学方法論Ⅳ				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>健康な生活における食事・排泄の意義を学ぶ。また、食事摂取・排泄機能の障害が対象に及ぼす影響を理解し対象に適した援助方法を学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間が生命を維持する上で必要不可欠な栄養・食事の意義を説明できる。</li> <li>2. 対象に応じた栄養・食事の必要性をアセスメントし、基本的な食事援助の技術を身につける。</li> <li>3. 人間にとって必要な排泄の意義を理解し、自然排尿・排便の援助方法を身につける。</li> <li>4. 排泄を整えるための摘便・浣腸の意義を理解し、基本的な摘便・浣腸の技術を身につける。</li> <li>5. 排泄を整えるための導尿の意義を理解し、基本的な導尿の技術を身につける。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <p>『食事』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事援助に関する基礎知識と援助技術（演習）</li> <li>2. 3. 食事介助の実際【食事介助・口腔ケア】（演習）</li> <li>4. 非経口的栄養摂取に関する基礎知識（演習）</li> <li>5. 6. 非経口的栄養摂取の実際【経管栄養法】（演習）</li> </ol> <p>『排泄』</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 自然排尿・排便を促す援助【床上排泄】【陰部洗浄】（演習）</li> <li>8. 排便を促す援助【浣腸】（演習）</li> <li>9. 排便を促す援助【摘便】（演習）</li> <li>10. 11. 排尿を促す援助【導尿】（演習）</li> <li>12. 事例展開</li> <li>13. 14. 食事・排泄に関する技術（技術試験）</li> <li>15. 食事・排泄に関する知識試験（筆記試験）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院）  系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験－筆記（30%）、技術（60%）、課題・授業態度・出席状況（10%）</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	基礎看護学方法論 V				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>診療の補助に伴う援助の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される治療、検査などに必要な基本的知識を理解し、援助技術の方法を身につける。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検査の意義と看護師の役割について理解し、検査を安全に正確に行う技術を身につける。</li> <li>2. 呼吸の生理学的メカニズムを理解し、呼吸困難を軽減する技術を身につける。</li> <li>3. 安全に与薬を実施するための基礎的知識を理解し、与薬の技術を身につける。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2. 呼吸・循環を整える技術（演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 吸入・酸素・吸引療法の基礎知識と援助技術</li> <li>2) 吸入・酸素・吸引療法の実際</li> </ol> </li> <li>3. 4. 与薬の技術（演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 与薬の基礎知識と援助技術</li> <li>2) 注射器の取り扱い</li> <li>3) 薬液の吸い上げ</li> </ol> </li> <li>5. 6. 与薬の技術（演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 与薬の実際【筋肉内注射】</li> </ol> </li> <li>7. 8. 与薬の技術（演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 与薬の実際【皮下注射】</li> </ol> </li> <li>9. 10. 与薬の技術（演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 与薬の実際【点滴静脈内注射・静脈内注射】</li> </ol> </li> <li>11. 12. 診療・検査の基礎知識と介助技術（演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 検体検査と援助の実際</li> <li>2) 生体検査と援助の実際</li> <li>3) 採血法</li> <li>4) 事例展開</li> </ol> </li> <li>13. 14. 診療に伴う援助技術に関する技術（技術試験）</li> <li>15. 診療に伴う援助技術に関する知識試験（筆記）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②（医学書院）  系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験－筆記（30％）、技術（60％）、課題・授業態度・出席状況（10％）</p> <p>担当講師の専門領域実務経験  職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	地域・在宅看護総論				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>看護の対象は療養者を含めた地域で生活する人々であると捉え、地域・在宅看護活動で特徴的な集団や地域社会の理解を深めるための基礎的能力を身につける。ヘルスポモーションの理念に基づき、健康で暮らしやすい地域や暮らしづくりについて学び、暮らしが健康に与える影響について学ぶ。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々の暮らしと地域・在宅看護について説明できる。</li> <li>2. 暮らしの基盤としての地域の特徴について説明できる。</li> <li>3. 地域・在宅看護の対象について説明できる。</li> <li>4. 暮らしが健康に及ぼす影響について説明できる。</li> </ol> <p>【学習内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々の暮らしと地域・在宅看護（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人々の暮らしの理解</li> <li>2) 高知県の特徴</li> <li>3) 近森病院附属看護学校がある高知市の特徴</li> <li>4) 地域・在宅看護の役割</li> </ol> </li> <li>2. 3 暮らしの基盤としての地域の理解（講義）（演習）</li> <li>4 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 暮らしと地域</li> <li>2) 暮らしと地域を理解するための考え方</li> <li>3) 地域包括ケアシステムと地域共生社会</li> <li>4) 学校周辺のフィールドワーク グループに分かれて地域散策</li> <li>5) まとめ・発表</li> </ol> </li> <li>5. 地域・在宅看護の対象（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域・在宅看護の対象者</li> <li>2) 家族の理解</li> <li>3) 地域に暮らす対象者の理解と看護</li> </ol> </li> <li>6. 7 地域における暮らしを支える看護（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 暮らしを支える地域・在宅看護</li> <li>2) 暮らしの環境を整える看護</li> <li>3) 広がる看護の対象と提供方法</li> <li>4) 地域における家族への看護</li> <li>5) 地域におけるライフステージに応じた看護</li> <li>6) 地域での暮らしにおけるリスクの理解</li> <li>7) 地域での暮らしにおける災害対策</li> </ol> </li> <li>8. 科目終了試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験 80%</p> <p>演習（参加・達成状況、課題提出）10%</p> <p>授業態度（出席状況含む）10%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	地域・在宅看護援助論 I				
開講時期	1 年次 後期	方法・単位	講義・1 単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
<p>地域・在宅看護の歴史の変遷を概観し、地域・在宅看護の定義や理念、地域・在宅看護活動の目的や基盤となる関連法規や制度について学習する。地域・在宅看護の対象者とその家族が住み慣れた地域で生活するための地域包括ケアシステムと看護活動、地域社会での活動方法や看護の機能と役割について学習する。また、在宅移行支援における多職種協働と看護の役割について学ぶ。</p>					
【学習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護実践の場と連携について説明できる。</li> <li>2. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用について説明できる。</li> <li>3. 多職種連携とチームでの協働の実際について説明できる。</li> <li>4. 地域・在宅看護のマネジメントについて説明できる。</li> <li>5. 在宅看護から地域看護への拡大について説明できる。</li> </ol>					
【学習内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2 地域・在宅看護実践の場と連携（講義）（廣末） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) さまざまな場・職種で支える地域での暮らし</li> <li>2) 地域・在宅看護実践の場</li> <li>3) 地域・在宅看護における多職種連携</li> </ol> </li> <li>3. 4 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用</li> <li>5. 6 （講義）（安岡） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護保険・医療保険制度</li> <li>2) 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制</li> <li>3) 訪問看護の制度</li> <li>4) 地域保健に関する法制度</li> <li>5) 高齢者に関する法制度</li> <li>6) 障害者・難病に関する法制度</li> <li>7) 公費負担医療に関する法制度</li> <li>8) 権利保障に関連する制度</li> </ol> </li> <li>7. 8 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働（講義）（廣末） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働</li> <li>2) 医療・福祉・介護関係者との連携・協働</li> <li>3) 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働</li> <li>4) 地域共生社会を実現するために</li> </ol> </li> <li>9. 1 0 地域・在宅看護のマネジメント(講義) (安岡) <ol style="list-style-type: none"> <li>1 1 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域・在宅看護マネジメントとは</li> <li>2) 多様な場における地域・在宅看護マネジメント</li> </ol> </li> <li>1 2. 1 3 地域在宅看護活動の創造と展開例 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 4 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域・在宅看護活動の創造</li> <li>2) 暮らしの保健室からみる地域・在宅看護活動の実践</li> <li>3) さまざまな地域・在宅看護活動の展開例</li> <li>4) 地域・在宅看護活動の創造のための考え方</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>1 5. 科目終了試験</li> </ol> </li></ol>					
【教科書・参考書等】					
<p>系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤（医学書院）  地域・在宅看護の実践（医学書院）</p>					
【成績評価】					
試験100%					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	成人看護学概論				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
【学習目的】					
成人期にある対象者の特徴を発達段階に応じて、身体、心理、社会的側面で捉え、成人が抱える健康問題を広く理解する。また、成人期にある対象者やその家族に応じた看護を実践するための基盤となる主要な概念や理論を学び、成人期の対象者に応じた看護ケアの基礎的な能力を学ぶ。					
【学習目標】					
1. 成人の特徴や生活と健康問題について理解する。 2. 成人保健の動向や成人の健康問題を理解する。 3. 成人の看護に必要な基本的アプローチの方法を理解する。					
【学習内容】					
1～2. 成人とは					
1) 成人各期の発達段階の特徴（青年期、壮年期、中年期、向老期） 2) 成人の発達理論、発達課題					
3～4. 成人の生活と健康					
1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康（成人保健の動向と健康問題） 2) 生活の健康をまもりはぐくむシステム（保健・医療・福祉の概要と連携）					
5. 成人への看護アプローチの基本					
1) 大人の健康行動の捉え方：大人の学習行動、集団へのアプローチ、多職種連携によるチームアプローチ 2) セルフマネジメント、自己効力を高める看護アプローチ 3) 看護実践における倫理的判断					
6. ヘルスプロモーションと看護					
1) ヘルスプロモーションとは 2) 個人の主体的な健康づくり 3) 健康増進のための環境づくり 4) 地域社会におけるヘルスプロモーションを促進する看護 5) 職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護					
7. 健康をおびやかす要因と看護					
1) 健康バランスの構成要素 2) 健康バランスに影響を及ぼす要因 3) 生活行動がもたらす健康問題とその予防					
8. 終了試験					
【使用テキスト】					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 第15版 医学書院					
【評価方法】					
試験 70%、課題 20%、授業態度（出席状況含む）10%					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目の実務経験あり					

授業科目	成人保健				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
【学習目的】 成人期の対象者を取り巻く社会の動向やライフサイクルにおける成人期の健康課題について理解し、対象者の現在から将来へ向けた看護の方向性について学ぶ。					
【学習目標】 1. 成人の健康レベルに対応した看護の基本的な考え方を理解する。 2. 成人期にある対象の健康レベルの特徴に応じた理論の活用について理解する。					
【学習内容】 1～2. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 1) 過大侵襲を受けた患者の生体反応 2) 周手術期の患者の看護 3) ショック状態の患者の看護 4) 危機モデル（フィンク、アギユラとメズニック）  3. 慢性病との共存を支える看護 1) 慢性疾患及び治療の特徴 2) 慢性病患者の理解（病みの軌跡） 3) 慢性病等の共存を支える看護の実践（エンパワメント、症状マネジメントとセルフモニタリング）  4. 障害がある人の生活とリハビリテーション 1) 障害がある人とリハビリテーション 2) 障害がある人と生活を支援する看護 3) ボディイメージの変化に対する看護 4) 日常生活再構築のための看護  5. 人生の最期のときを支える看護 1) 人生の最期のときにおける医療の現状 2) 人生の最期のときを過ごしている人の理解と看護  6. 治療過程にある人への看護 1) 手術療法・放射線療法・薬物療法がもたらす日常生活機能への影響 2) 手術療法・放射線療法・薬物療法を受けている患者への看護  7. 療養の場を移行する人々への看護 1) 療養の場の移行支援とは  8. 終了試験					
【使用テキスト】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 第15版 医学書院					
【評価方法】 試験 70%、課題 20%、授業態度（出席状況含む）10%					
担当講師の専門領域実務経験 職種・経験年数：担当科目の実務経験あり					

授業科目	老年看護学概論				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
【学習目的・授業概要】					
<p>老年期の特徴、加齢のプロセスと健康問題などについて学び、「老いを生きる」をささえることとは何かについて理解し、高齢期における看護の役割について学習する。</p>					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢による身体的・心理的・社会的特徴とそれに伴う生活の変化を理解する。</li> <li>2. 高齢社会の統計的特徴を理解する。</li> <li>3. 高齢社会の現状を踏まえ、老年看護学の特徴と役割を理解する。</li> <li>4. 高齢社会における保健医療福祉と倫理的課題を理解する。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1～2. 老いるということ、老いを生きるということ（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老いとは</li> <li>2) 老いのイメージ</li> <li>3) ライフステージとしての老年期 <ol style="list-style-type: none"> <li>①老年期とは ②老年期の発達課題・エリクソンによる発達課題・ハヴィガーストによる発達課題</li> </ol> </li> <li>4) 加齢と老化</li> <li>5) 老化の特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>①身体的側面・心理的側面・社会的側面の変化</li> <li>5) 身体に加齢変化とアセスメント <ol style="list-style-type: none"> <li>①看護職が行うフィジカルアセスメント ②皮膚とその付属器 ③視聴覚とその他の感覚 ④循環系</li> <li>⑤呼吸器系 ⑥消化・吸収 ⑦ホルモンの分泌 ⑧泌尿生殖器と性 ⑨運動系</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3. 高齢社会と社会保障 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者の統計的輪郭 <ol style="list-style-type: none"> <li>①わが国の高齢化 人口構造の変遷 ②高齢者のいる世帯 ③高齢者の健康状態 有訴者率、外来受療率、入院受療率④高齢者の死亡 死因の原因⑤高齢者の暮らし 高齢者の生きてきた時代背景 経済、住居、就業</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4～5. 老年看護の目的と役割 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年看護の理念</li> <li>2) 老年看護の目標 <ol style="list-style-type: none"> <li>①老年看護の特徴 ②老年看護の機能・役割</li> <li>③家族形態の社会的変化 <ol style="list-style-type: none"> <li>家族支援</li> <li>高齢者介護と家族問題</li> </ol> </li> <li>④理論・概念の活用 <ol style="list-style-type: none"> <li>サクセスフルエイジング、ニード論、危機理論、セルフケア理論、コンフォート理論など</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3) 老年看護に携わる者の責務 <ol style="list-style-type: none"> <li>高齢者のための国連原則 自立、参加、ケア、自己実現、尊厳</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>6～7. 高齢者の権利擁護と倫理的課題 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者における権利擁護（アドボカシー） <ol style="list-style-type: none"> <li>①高齢者におけるスティグマと差別、エイジズム</li> <li>②高齢者虐待 高齢者虐待防止法 虐待の分類</li> <li>③身体への拘束</li> <li>④権利擁護のための制度 成年後見制度・日常自律支援事業</li> <li>⑤老年看護領域における倫理的課題</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>8. 試験</li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院）</p>					
【成績評価】					
<p>試験（70%） 課題提出物（10%） 授業態度・発表・出席状況（20%）</p>					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：科目に関する実務経験あり					

授業科目	小児看護学概論				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>子どもが成長発達過程にあることを理解する上で基盤となる概念や理論を理解し、さまざまな健康レベルの子どもと家族の看護について学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが成長・発達過程にあることを理解するうえで、基盤となる考え方や理論を学び、小児看護の対象の特徴について理解する。</li> <li>2. 様々な発達段階の子どもや発達課題、健康問題を理解し、看護援助の在り方を考える。</li> <li>3. 健康障害を持つ子どもや家族のストレスや課題について理解し、子どもや家族の看護について考える。</li> <li>4. 子どもを取り巻く社会環境が子どもに与える影響について考える。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の概念、小児の定義・小児期の区分（講義） 小児看護の特質、小児看護の対象と目的</li> <li>2. 子どもの権利擁護と看護倫理（講義） 子どもの利益にかなう医療・看護、小児看護の役割</li> <li>3. 子どもの成長・発達（講義）</li> <li>4. 小児各期の特徴1（乳児期）（講義）</li> <li>5. 小児各期の特徴2（幼児期）（講義）</li> <li>6. 小児各期の特徴3（学童期）（講義）</li> <li>7. 小児各期の特徴4（思春期）（講義）</li> <li>8. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験90% 課題10%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目の実務経験あり</p>					

授業科目	母性看護学概論				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>母性看護を実践するための基盤となる、母性看護の特徴と概念について理解し女性を取り巻く社会の現状やライフステージ各期の健康と看護について学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護の定義・目的・役割を学び、性の多様性、母性看護学の基盤となる諸概念を理解する。</li> <li>2. 人々のリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する社会問題を理解する</li> <li>3. 女性のライフサイクル各期の健康課題を理解し、看護を説明できる。</li> <li>4. その人の健康上の強みに着目し、正常な成長と発達課題を支援するための考え方を理解する。</li> <li>5. 生殖に関わる倫理的課題を理解する。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護の基盤となる概念(1) 母性とは/セクシュアリティ国際化社会と母性看護（講義）</li> <li>2.母性看護の基盤となる概念（2） リプロダクティブヘルス・ライツ /ヘルスプロモーション</li> <li>3.母性看護における倫理 母性看護における安全・事故予防</li> <li>4. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 性周期の確立と衰退</li> <li>5.母性の発達・成熟・継承 女性のライフサイクルと家族</li> <li>6.ウェルネスの要素・視点</li> <li>7.リプロダクティブヘルス 10代の妊娠/女性とタバコ/女性と飲酒/性暴力を受けた女性/児童虐待</li> <li>8. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考図書】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験90%</p> <p>授業態度・授業参加状況10%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	精神看護学概論				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
【学習目的】					
精神障がい者の理解とともに、精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史の変遷を体系的に学習し、精神疾患を抱えながら生活している人の人権や権利擁護について学び、精神看護の実践の基礎となる考え方や態度を養う。					
【学習目標】					
1. あらゆるライフステージにある人を対象として、健康・医療・福祉の統合を視野に入れて、精神の健康障害時の看護について理解できる。					
2. 精神看護を理解するために、こころの健康について理解を深め、精神看護の目的・機能・実践を支える理論について理解できる。					
3. 精神保健医療福祉の歴史を知り、現代社会での役割について説明できる。					
【学習内容】					
1. 精神看護とは（講義）					
2. 精神保健医療福祉と看護の歴史の変遷（講義）					
3. 精神科領域で必要な法律と制度（講義）					
4. こころのはたらき①（発達、防衛機制）（講義）					
5. こころのはたらき②（人格、学習）（講義）					
6. 精神科看護の倫理的視点（講義・演習）					
7. 治療的コミュニケーション（講義・演習）					
8. 終了試験					
【使用テキスト】					
系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院					
系統看護学講座 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院					
【評価方法】					
筆記試験（80%）					
授業態度（20%）					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：科目に関する実務経験あり					

授業科目	基礎看護学実習 I				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	実習・1単位	時間数	45時間
<p>【実習目的及び授業の概要】</p> <p>患者を尊重した態度について考え、患者とのコミュニケーションを図る能力を養い、看護者としての基本的能力を身につける。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師の役割を学ぶことで専門職としての姿勢を身につけることができる。</li> <li>2. 看護の対象を知り、患者との関わりを通して自己洞察を深める。</li> </ol> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設のオリエンテーションを受け、各施設の機能・役割が理解できる。</li> <li>2. シャドーイングを通して看護業務や患者との関わり方を理解することができる。</li> <li>3. 実習を通して、看護学生として望ましい態度を身につけることができる。</li> <li>4. 入院患者とのコミュニケーションを通して病床での生活と心理を知る。</li> </ol> <p>【成績評価】</p> <p>実習への出席状況、実習態度、振り返り発表会への参加状況、実習記録などから評価表を用いて総合的に評価する。</p> <p>詳細は実習要項を参照</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ				
開講時期	1年次 後期	方法・単位	実習・1単位	時間数	45時間
<p>【実習目的及び授業の概要】</p> <p>患者の生活環境と療養生活の実際を知り、対象に合った援助について考えることができる。また、安全・安楽の視点から人間の基本的な欲求の充足に必要な日常生活援助を、対象への配慮を考えながら実施することができる。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の生活環境について理解できる。</li> <li>2. 患者に必要な看護援助を考え実施できる。</li> </ol> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟・病室の構造、設備などを見学し、患者の生活環境を実際に観察することができる。</li> <li>2. 入院患者の生活の場である患者の病室環境が理解できる。</li> <li>3. 生活を整える援助技術を見学し、指導者とともに一部実施する。</li> <li>4. 入院生活における患者へのプライバシーの確保、事故・感染予防策について説明できる。</li> </ol> <p>【成績評価】</p> <p>実習への出席状況、実習態度、振り返り発表会への参加状況、実習記録などから評価表を用いて総合的に評価する。</p> <p>詳細は実習要項を参照</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	地域・在宅看護論実習 I				
開講時期	1年次 前期	方法・単位	実習・1単位	時間数	45時間
<p><b>【実習目的】</b>  地域のフィールドワークを通して地域で暮らす人々と生活環境を知り、健康で暮らしやすい地域や暮らしづくりについて考える機会とする。暮らしが健康に与える影響について知り、健康課題を把握し、健康と暮らしを支える看護について考える土台づくりとする。</p> <p>また、地域で生活する人々とその家族の健康や暮らしを支援するために生活の基盤である地域の特性や社会資源、ソーシャルサポートについて体験を通して学ぶ。</p> <p><b>【実習目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で暮らす人々の思いとその生活について知る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域で暮らす人々との交流を通してその思いの多様性について説明できる。</li> <li>2) 生活体験を通して地域で暮らす人々の生活について説明できる。</li> </ol> </li> <li>2. 生活が健康に及ぼす影響について知る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域で暮らす人々の生活環境や生活習慣について説明できる。</li> <li>2) 生活環境や生活習慣が健康に及ぼす影響について説明できる。</li> </ol> </li> <li>3. 地域で生活する人々とその家族の健康を支える地域の特性や社会資源、ソーシャルサポートについて体験を通して知る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人々とその家族の健康を支える地域の特性について説明できる。</li> <li>2) 地域で生活する人々が利用できる社会資源やソーシャルサポートについて説明できる。</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【実習内容および実習施設】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高知県長岡郡大豊町大平地区（ギャラリー 夢来里）</li> <li>2. 大豊町社会福祉協議会</li> <li>3. 高知市社会福祉協議会</li> <li>4. 南国市社会福祉協議会</li> <li>5. 居宅介護支援事業所 ゆう</li> <li>6. 居宅介護支援事業所 スタイル</li> <li>7. ふくい居宅介護支援事業所</li> </ol> <p>上記の7施設にグループ毎に分かれて臨地での実習を2日間行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のフィールドワーク</li> <li>・地域における様々な活動の場への参加</li> <li>・地域の人々とのコミュニケーション</li> <li>・地域のボランティア活動への参加</li> <li>・個人宅訪問</li> </ul> <p>学内での実習：3日間（実習前のオリエンテーション、実習後のまとめおよび学びの発表）</p> <p><b>【評価方法】</b>  実習態度、レポートなどから総合的に評価する。</p> <p>詳細は実習要項を参照</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験  職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	看護英語				
開講時期	3年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>医療従事者に求められる、英語を使った総合的コミュニケーション能力を身につける</p> <p>【達成目標】</p> <p>1. 「外国人の患者さんの戸惑いを理解し、いかに対応していくか」という視点から、英語力を向上させる</p> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初診の外来患者に（講義）</li> <li>2. 基本問診・病歴（講義）</li> <li>3. 症状をたずねる（講義）</li> <li>4. 院内設備の案内（講義）</li> <li>5. 救急患者（講義）</li> <li>6. 診察日の予約（講義）</li> <li>7. 基礎的な検査（講義）</li> <li>8. 精密検査（講義）</li> <li>9. リハビリテーション（講義）</li> <li>10. 手術の前後（講義）</li> <li>11. 毎日の観察（講義）</li> <li>12. 入院患者の安らぎ（講義）</li> <li>13. 薬などの利用法（講義）</li> <li>14. 患者教育・医療相談（講義）</li> <li>15. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>現場で役立つ！看護・医療スタッフの英語（朝日出版社）</p> <p>【成績評価】</p> <p>筆記試験（70%）、出席と受講態度（30%）</p>					
<p>備考</p> <p>外国人に「日本では、安心して医療を受けられる」と思ってもらえるか否かは、あなたの日々のコミュニケーションにかかっています。どの国籍の患者さんとでもつながりあえる。そんな対応力を身につけるつもりで授業に臨んでください。</p>					

授業科目	リハビリテーション概論				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
【学習目的・授業の概要】					
リハビリテーションの概念、理念を理解し、各疾患の特徴を捉え、国際生活機能分類に基づいた援助方法を学ぶ。また、リハビリテーション医療にかかわる職種の役割とチームアプローチについて学ぶ。					
【達成目標】					
1. リハビリテーションとは何かを理解する					
2. リハビリテーション医療とは何かを理解する					
3. 国際生活機能分類（ICF）による生活機能と障害のアセスメントの視点を理解する					
4. 障害者に関連した社会保障を理解する					
5. リハビリテーション医療におけるチームアプローチについて理解する					
【授業内容及び授業方法】					
1. リハビリテーション概論					
1) リハビリテーションの定義と理念					
2) 障害者に関連した社会保障					
3) 国際生活機能分類					
4) リハビリテーション医療の役割					
2. 疾患別リハビリテーション1					
1) 運動器疾患のリハビリテーション					
2) 廃用症候群					
3. 疾患別リハビリテーション2					
1) 脊髄損傷のリハビリテーション					
4. 疾患別リハビリテーション3					
1) 脳血管疾患のリハビリテーション					
5. 疾患別リハビリテーション4					
1) パーキンソン病のリハビリテーション					
6. 疾患別リハビリテーション5					
1) 呼吸器のリハビリテーション					
2) 循環器のリハビリテーション					
3) 感覚器のリハビリテーション					
7. リハビリテーション看護概論1					
8. 筆記試験					
【教科書・参考書等】					
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護					
【成績評価】					
筆記試験、課題、授業態度、出席状況					
担当講師の専門領域実務経験					
職・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	リハビリテーション演習				
開講時期	2年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
<p>リハビリテーション医療の対象となる人のセルフケア（自立・自律）支援に必要な看護技術を理解する。 また、リハビリテーション医療にかかわる専門職の役割と、医療チームの中での看護師の役割を理解する。</p>					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの目的とリハビリテーション医療の役割について理解する。</li> <li>2. 対象者の障害の特徴と自立支援に向けた援助方法を習得する。</li> <li>3. 国際生活機能分類（ICF）の考え方にもとづいて、対象者の健康状態のアセスメントの視点を理解する。</li> <li>4. リハビリテーション医療における各専門職の役割を理解する。</li> <li>5. リハビリテーション医療におけるチームアプローチの方法について理解する。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経麻痺の特徴と回復過程（小笠原）</li> <li>2. 3. 脳血管障害による高次機能障害（失認・失行）の理解、評価と援助方法（小笠原・中島）</li> <li>4. 5. 脳血管障害によるコミュニケーション障害（失語症・構音障害）の理解と援助方法（小笠原・矢野）</li> <li>6. 7. 脳血管障害による精神機能障害（うつ・知能・記憶）の理解、評価と援助方法（小笠原・和田）</li> <li>8. 9. 脳血管障害による摂食・嚥下障害の理解、評価と援助方法（小笠原・矢野）</li> <li>10. 11. 12. 13. ADLにおける援助方法（小笠原・寺山） <ol style="list-style-type: none"> <li>①起居（寝返りから端座位・座位保持・立ち上がり・立位保持）</li> <li>②移乗（ベッドと車椅子・便座）</li> <li>③車椅子の安全操作と駆動</li> <li>④歩行（補装具の適応）と援助方法</li> <li>⑤転倒防止</li> </ol> </li> <li>14. 運動器障害の評価と援助方法（小笠原） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 形態測定の方法 ①四肢長・周径 ②関節可動域 ③筋力</li> <li>2) ADLにおける援助方法</li> </ol> </li> <li>15. 脊髄損傷の評価と援助方法（小笠原） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 損傷部位別の運動レベルとADL</li> <li>2) ADLと援助方法</li> </ol> </li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
<p>系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護</p>					
【成績評価】					
<p>筆記試験 授業態度</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験 職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	医療と経済				
開講時期	3年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>社会構造の変化や価値観の変化により、現在の医療システムは大きく改革が進められている。医療の現状や国の施策や今後の見通しなどを理解し、医療における経済的視点を養う。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織における看護の役割について説明できる。</li> <li>2. 組織の中での役割分担の在り方について理解できる。</li> <li>3. 組織の中での情報管理システムについて理解できる。</li> <li>4. 看護の質を評価する必要性とその方法について理解できる</li> <li>5. 看護管理における費用対効果の重要性について理解できる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療と経済の関係（講義）</li> <li>2. 組織とは（講義）</li> <li>3. 医療経済の現状（講義）</li> <li>4. 社会保障政策・制度と医療経済（講義）</li> <li>5. 社会の変化と医療経済（講義）</li> <li>6. 病院の機能、他部門の役割・看護行為と経済（講義）</li> <li>7. 看護の質と経済効果（講義）</li> <li>8. 科目終了試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験、授業態度 100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	保健医療福祉総論				
開講時期	3年次 前期	方法・単位	演習・2単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>保健・医療・福祉・行政に関する基本的仕組みを理解するとともに、最近の施策の動向と将来の課題について学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <p>①社会の動向特性  ②日本の社会保障制度の変遷と特徴  ③社会保障制度の種類（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、医療など）  ④社会保険の種類（医療保険、年金保健、労災保険、雇用保険、介護保険）  ⑤公衆衛生及び医療の主な関連法規（地域保健法、感染症法、健康増進法、学校保健安全法、労働安全衛生法、医療法など）  ⑥保健・医療・福祉における課題（生活習慣病、母子保健、児童福祉、学校保健、成人保健、産業保健、高齢者の保健・医療・福祉制度、認知症、障害児・者施策、精神保健、歯科保健、感染症、がん、難病等）の動向と対策</p> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の歩みと医療観の変遷（山崎）（講義）</li> <li>2. 科学技術の進歩と現代医療の最前線（山崎）（講義）</li> <li>3. 現代医療の新たな課題（山崎）（講義）</li> <li>4. 医療を見つめ直す新しい視点（山崎）（講義）</li> <li>5. 医療コミュニケーションの原点（安岡）（講義）</li> <li>6. 医療と看護の原点-病と癒し（安岡）（講義）</li> <li>7. 保健・医療・福祉の潮流（安岡）（講義）</li> <li>8. 試験（山崎、安岡）</li> <li>9. 医療保障（西本）（講義）</li> <li>10. 介護保障（西本）（講義）</li> <li>11. 所得保障（西本）（講義）</li> <li>12. 公的扶助（西本）（講義）</li> <li>13. 社会福祉の分野とサービス（西本）（講義）</li> <li>14. 社会福祉実践と医療・看護（西本）（講義）</li> <li>15. 社会福祉の歴史（西本）（講義）</li> <li>16. 試験（西本）</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野 医学概論（医学書院）  系統看護学講座 専門分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験 100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	公衆衛生学				
開講時期	3年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
【学習目的・授業の概要】					
<p>将来の組織的保健活動に役に立つように人々の疾病を予防すること、より良い健康水準の獲得を目指すことを目標として、医学的、社会的、疫学的、行政的視点から、健康を維持し、増進するための基礎的知識を習得する。</p>					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病予防の概念について理解する。</li> <li>2. 健康指標について理解する。</li> <li>3. 生活習慣病の危険因子について説明できる。</li> <li>4. 生活環境の健康影響について理解する。</li> <li>5. 感染症の疫学とその予防について説明できる。</li> <li>6. 労働者の健康管理について理解する。</li> <li>7. 医療に影響する高齢者の特徴について説明できる。</li> <li>8. 社会の動向や特性を説明できる。</li> <li>9. 疫学的因果関係の推定について説明できる。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生の基礎1【公衆衛生の理念】（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生の目的とその方法</li> <li>2) 健康の概念と主観的健康感</li> <li>3) 権利とプライマリヘルスケア（PHC）</li> </ol> </li> <li>2. 公衆衛生の基礎2【公衆衛生の技術】（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 疫学と健康指標</li> <li>2) 健康づくりを支援する新しい健康教育</li> <li>3) 集団とコミュニケーションを対象とした政策立案</li> <li>4) 活動計画と実践評価のプロセス</li> </ol> </li> <li>3. 公衆衛生の基礎3【医療の動向と医療保障】（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療の動向</li> <li>2) 医療保障制度と経済政策</li> </ol> </li> <li>4. 公衆衛生の基礎4【公衆衛生と国際化】（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生と国際化</li> <li>2) 国際協力</li> <li>3) 情報公開と生命倫理</li> </ol> </li> <li>5. 公衆衛生と地域保健1（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域保健</li> <li>2) 母子保健</li> </ol> </li> <li>6. 公衆衛生と地域保健2（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学校保健</li> <li>2) 成人・老人保健</li> <li>3) 精神保健</li> <li>4) 難病保健</li> </ol> </li> <li>7. 公衆衛生と環境保健（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活環境</li> <li>2) 産業保健・労働環境</li> <li>3) 感染症・危機管理</li> </ol> </li> <li>8. 科目終了試験</li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
国民衛生の動向					
【成績評価】					
試験 100%					
備考					

授業科目	関係法規 (社会保障制度)				
開講時期	3年次 後期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>我が国の保健・医療・福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解する。また、看護職として国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するために、看護関係法令を理解する。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会の動向特性について理解する。</li> <li>2. 日本の社会保障制度の変遷と特徴について理解する。</li> <li>3. 社会保障制度の種類（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、医療など）について理解する。</li> <li>4. 社会保険の種類（医療保険、年金保健、労災保険、雇用保険、介護保険）について理解する。</li> <li>5. 公衆衛生及び医療の主な関連法規（地域保健法、感染症法、健康増進法、学校保健安全法、労働安全衛生法、医療法など）について理解する。</li> <li>6. 保健・医療・福祉における課題（生活習慣病、母子保健、児童福祉、学校保健、成人保健、産業保健、高齢者の保健・医療・福祉制度、認知症、障害児・者施策、精神保健、歯科保健、感染症、がん、難病等）の動向と対策について理解する。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法の概念と医事法（寺田）（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 法の概念 法の分類 衛生法 厚生行政のしくみ</li> <li>2) 保健師助産師看護師法</li> <li>3) 看護師等の人材確保の促進に関する法律</li> <li>4) 医師法</li> <li>5) 医療法</li> <li>6) 他職種の法</li> </ol> </li> <li>2. 保健衛生法（西本）（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域保健法、健康増進法</li> <li>2) その他保健衛生にかかわる法律</li> </ol> </li> <li>3. 薬務法（寺田）（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 薬事法、薬剤師法</li> <li>2) その他薬務にかかわる法律</li> </ol> </li> <li>4. 環境衛生法（西本）（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活衛生関係営業の運営の適正化および振興に関する法律</li> <li>2) その他環境衛生に関する法律</li> </ol> </li> <li>5. 社会保険法（西本）（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康保険法、国民健康保険法</li> <li>2) その他社会保険にかかわる法律</li> </ol> </li> <li>6. 福祉法（西本）（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会福祉法、生活保護法</li> <li>2) その他福祉にかかわる法律</li> </ol> </li> <li>7. 労働法と社会整備及び環境法（寺田）（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 労働基準法、労働契約法</li> <li>2) その他労働にかかわる法律</li> <li>3) 社会基盤整備 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 男女共同参画社会基本法</li> <li>(2) その他社会基盤整備にかかわる法律</li> </ol> </li> <li>4) 環境基本法、大気汚染防止法</li> <li>5) その他環境にかかわる法律</li> </ol> </li> <li>8. 科目終了試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④（医学書院）</p> <p>【成績評価】 試験、授業態度 100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	基礎看護学方法論演習				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>急激に生命の危機状況を来した対象者とその家族に必要な看護が実践できるように、急性期の事例を用いて、対象者とその家族への理解を深める。そして、看護の必要性を判断し、日常生活を整えるために根拠に基づいた計画を立案し、倫理的視点を考慮した看護援助が実施できるような基礎的能力を養う。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急激に生命の危機状況におかれた対象者とその家族を理解し、表現することができる。</li> <li>2. 急性期の事例をもとに、対象の看護の必要性を認識し、必要な看護を状況に合わせて実施・評価することができる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】（演習）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急激に生命の危機状況におかれた対象者とその家族の理解（1）</li> <li>2. 急激に生命の危機状況におかれた対象者とその家族の理解（2）</li> <li>3. 看護過程の事例展開1【アセスメント】</li> <li>4. 看護過程の事例展開2【アセスメント】</li> <li>5. 看護過程の事例展開1【全体像】</li> <li>6. 看護過程の事例展開2【全体像】</li> <li>7. 看護過程の事例展開1【看護問題】</li> <li>8. 看護過程の事例展開2【看護問題】</li> <li>9. 看護過程の事例展開1【看護計画の立案】</li> <li>10. 看護過程の事例展開2【看護計画の立案】</li> <li>11. 看護過程の事例展開1【実施】</li> <li>12. 看護過程の事例展開2【実施】</li> <li>13. 看護過程の事例展開1【評価】</li> <li>14. 看護過程の事例展開2【評価】</li> <li>15. 看護過程のまとめ1</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）  系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）  ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント（メディカ出版）  系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器  系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学（医学書院）  成人看護学 成人看護学概論 第2版（ヌーヴェル ヒロカワ）</p> <p>【成績評価】</p> <p>課題レポート：80%  授業態度：20%</p> <p>担当講師の専門領域実務経験  職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	成人看護援助論 I (急性期①)				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的】 クリティカルケアを受ける患者の特性やクリティカルケアの場の特殊性、およびクリティカルケアを受ける患者や家族の看護について学ぶ。					
【学習目標】 1. クリティカルな状態にある患者の急激な身体状態の変化と、患者とその家族にもたらす社会的・精神的影響について理解できる。 2. クリティカルな状態にある患者とその家族の特徴を理解し、必要な看護援助について説明できる。 3. クリティカルな状況下の患者やその家族に起こりうる倫理的問題と意思決定を支える援助について説明できる。					
【学習内容】 (講義)					
1. クリティカルケアとは、クリティカルケア看護とは		9～11. クリティカルケア看護に必要な看護技術			
1) クリティカルケアの概念		1) 心肺蘇生法 (学内実習)			
2) クリティカルケア看護の特性		2) 呼吸管理			
3) クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴		3) 体液・循環管理			
2. クリティカルケア看護の実践に必要なマネジメント、倫理・法律		4) 栄養・代謝管理			
1) クリティカルケアと看護管理		5) 体温管理			
2) クリティカルケア看護とチーム医療		6) 感染予防対策			
3) クリティカルケア看護と倫理・法律		7) コミュニケーション			
3～7. クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア		12. クリティカルな状況下で起こりうる倫理的問題と看護			
1) 過大侵襲を受けた患者の生体反応		13～14. クリティカルケア再考, 事例検討 (演習)			
2) 呼吸障害		15. 科目終了試験			
3) 循環障害					
4) 脳・神経系障害					
5) 多臓器不全, DIC					
6) 精神障害					
8. 救急看護の特徴					
1) 救急患者の特徴					
2) 救急医療体制と救急医療の現状					
【使用テキスト】 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 (医学書院) 成人看護学 成人看護学概論 第2版 (ヌーヴェル ヒロカフ) 周手術期看護 学習ワークブック (メチカルフレンド社) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院)					
【評価方法】 試験：70% 授業態度・出席状況・提出物：30%					
担当講師の専門領域実務経験 職・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	成人看護援助論Ⅱ (急性期②)				
開講時期	2年次 前期・後期	方法・単位	演習・2単位	時間数	60時間
<p>【学習目的】 急性期にある対象者の身体的変化や心理的特徴を踏まえた効果的な看護援助の在り方を学ぶ。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>急性期の状態にある患者の看護実践に必要な基礎的・基本的知識の概要について理解する。</li> <li>治療のための特殊な場に置かれた対象者の生活行動への援助の方法を理解する。</li> <li>急性期の患者の苦痛症状を理解し、症状緩和の在り方を理解する。</li> <li>予防が必要な対象者の健康増進、自立の促進等を目指した関わりを理解できる。</li> </ol> <p>【学習内容】(講義)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア(友草)       <ol style="list-style-type: none"> <li>周手術期の患者の看護</li> </ol> </li> <li>2～3. 呼吸機能障害のある患者の看護(磯野)</li> <li>4～8. 循環機能障害のある患者の看護(池畠)</li> <li>9～11. 脳・神経疾患患者の看護(徳留)</li> <li>12～14. 運動器に障害のある患者の看護(友草)</li> <li>15. 前期終了試験</li> <li>16～20. 消化機能障害のある患者の看護(磯野)</li> <li>21. 感染症疾患患者の看護・ショック状態の患者の看護(磯野)</li> <li>22. 急性薬物中毒の患者の看護(磯野)</li> <li>23. いのちの授業(腎移植)(堀見)</li> <li>24. 急性期の看護に必要な看護技術(徳留)       <ol style="list-style-type: none"> <li>スキンケア</li> <li>口腔ケアとアイケアの技術</li> <li>体位変換・関節可動域訓練</li> <li>疼痛と緩和ケア</li> <li>廃用症候群の予防と早期リハビリテーション</li> <li>摂食・嚥下促進</li> </ol> </li> <li>25～26 急性期の看護に必要な看護技術(磯野)(学内実習)       <ol style="list-style-type: none"> <li>心電図モニター・デキスター</li> <li>気管挿管、人工呼吸器管理</li> </ol> </li> <li>27. 危機状況にある患者・家族のケア(磯野)</li> <li>28. 急性期の状態にある患者の事例(周手術期)(磯野)</li> <li>29. 急性期の状態にある患者の事例(周手術期)(磯野)</li> <li>30. 終了試験</li> </ol> <p>【使用テキスト】</p> <p>成人看護学 成人看護学概論 第2版 (ヌーヴェル ヒロカワ)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学(医学書院)</p> <p>【評価方法】</p> <p>試験：90%、課題・授業態度・出席状態：10%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	成人看護援助論Ⅲ (回復期・慢性期)						
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間		
【学習目的・授業の概要】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>回復過程にある患者とその家族の特徴を理解し、再発予防を含めたリスク管理を行ないながら、活動を促進する看護の役割と方法を学ぶ。</li> <li>慢性疾患など生涯にわたり症状・生活のコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知り、その状況に応じた看護の役割と援助方法を学ぶ。</li> </ol>							
【達成目標】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患患者の特徴や行われる代表的な治療と看護の特徴が理解できる。</li> <li>主要な慢性疾患患者への看護が理解できる。</li> <li>慢性期にある人やその家族への看護援助を展開するために活用できる理論や概念を理解し、事例を用いて看護過程が展開できる。</li> <li>回復過程にある患者を、身体・心理・社会的側面から多面的に捉えることができる。</li> <li>回復過程における全身管理とリスクマネジメントについて理解できる。</li> <li>回復過程にある患者のADL援助ができる。</li> <li>回復過程にある患者とその家族の生活上の課題を明確にし、生活の再構築の支援について理解できる。</li> <li>退院支援における多職種協働や地域との連携について理解できる。</li> <li>事例を通して家庭復帰への課題を理解することができる。</li> </ol>							
【授業内容及び授業方法】（講義）							
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患患者の特徴（岩井）</li> <li>慢性疾患患者に行われる代表的な治療（川田）</li> <li>慢性疾患患者への看護の特徴（岩井）</li> <li>主要な慢性疾患患者への看護援助（川田）</li> <li>～6. 慢性期にある対象者への看護援助（岩井・川田） 【事例展開】DM、腎不全（演習）</li> <li>回復過程にある患者のアセスメント（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>身体機能の考え方と評価</li> <li>精神機能の考え方と評価</li> <li>ADLの考え方と評価</li> <li>QOLの考え方と評価</li> </ol> </li> <li>回復過程における全身管理とリスクマネジメント（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>転倒 2) 誤嚥性肺炎 3) 抑うつ</li> <li>脳卒中再発 5) 廃用症候群と予防</li> <li>安全と抑制</li> </ol> </li> <li>～10. 回復過程にある患者のADL援助（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>食事 2) 排泄 3) 更衣 4) 移動・移乗</li> <li>入浴 6) 口腔ケア</li> </ol> </li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>回復過程にある患者とその家族の生活の再構築の支援（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>障害への反応と回復過程</li> <li>生活の再構築</li> <li>家族の理解</li> <li>患者・家族指導</li> </ol> </li> <li>退院支援における多職種協働（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>専門職の役割</li> <li>退院支援</li> <li>多職種カンファレンス</li> <li>社会制度</li> <li>住環境</li> </ol> </li> <li>地域との連携（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>地域連携</li> </ol> </li> <li>事例を用いた看護の展開（継続看護）（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>脳血管疾患（演習）</li> </ol> </li> <li>終了試験</li> </ol> </td> </tr> </table>						<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患患者の特徴（岩井）</li> <li>慢性疾患患者に行われる代表的な治療（川田）</li> <li>慢性疾患患者への看護の特徴（岩井）</li> <li>主要な慢性疾患患者への看護援助（川田）</li> <li>～6. 慢性期にある対象者への看護援助（岩井・川田） 【事例展開】DM、腎不全（演習）</li> <li>回復過程にある患者のアセスメント（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>身体機能の考え方と評価</li> <li>精神機能の考え方と評価</li> <li>ADLの考え方と評価</li> <li>QOLの考え方と評価</li> </ol> </li> <li>回復過程における全身管理とリスクマネジメント（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>転倒 2) 誤嚥性肺炎 3) 抑うつ</li> <li>脳卒中再発 5) 廃用症候群と予防</li> <li>安全と抑制</li> </ol> </li> <li>～10. 回復過程にある患者のADL援助（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>食事 2) 排泄 3) 更衣 4) 移動・移乗</li> <li>入浴 6) 口腔ケア</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>回復過程にある患者とその家族の生活の再構築の支援（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>障害への反応と回復過程</li> <li>生活の再構築</li> <li>家族の理解</li> <li>患者・家族指導</li> </ol> </li> <li>退院支援における多職種協働（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>専門職の役割</li> <li>退院支援</li> <li>多職種カンファレンス</li> <li>社会制度</li> <li>住環境</li> </ol> </li> <li>地域との連携（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>地域連携</li> </ol> </li> <li>事例を用いた看護の展開（継続看護）（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>脳血管疾患（演習）</li> </ol> </li> <li>終了試験</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患患者の特徴（岩井）</li> <li>慢性疾患患者に行われる代表的な治療（川田）</li> <li>慢性疾患患者への看護の特徴（岩井）</li> <li>主要な慢性疾患患者への看護援助（川田）</li> <li>～6. 慢性期にある対象者への看護援助（岩井・川田） 【事例展開】DM、腎不全（演習）</li> <li>回復過程にある患者のアセスメント（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>身体機能の考え方と評価</li> <li>精神機能の考え方と評価</li> <li>ADLの考え方と評価</li> <li>QOLの考え方と評価</li> </ol> </li> <li>回復過程における全身管理とリスクマネジメント（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>転倒 2) 誤嚥性肺炎 3) 抑うつ</li> <li>脳卒中再発 5) 廃用症候群と予防</li> <li>安全と抑制</li> </ol> </li> <li>～10. 回復過程にある患者のADL援助（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>食事 2) 排泄 3) 更衣 4) 移動・移乗</li> <li>入浴 6) 口腔ケア</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>回復過程にある患者とその家族の生活の再構築の支援（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>障害への反応と回復過程</li> <li>生活の再構築</li> <li>家族の理解</li> <li>患者・家族指導</li> </ol> </li> <li>退院支援における多職種協働（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>専門職の役割</li> <li>退院支援</li> <li>多職種カンファレンス</li> <li>社会制度</li> <li>住環境</li> </ol> </li> <li>地域との連携（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>地域連携</li> </ol> </li> <li>事例を用いた看護の展開（継続看護）（岡部）               <ol style="list-style-type: none"> <li>脳血管疾患（演習）</li> </ol> </li> <li>終了試験</li> </ol>						
【教科書・参考書等】							
成人看護学 成人看護学概論 第2版（ヌーヴェル ヒロカワ） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器（医学書院） 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護（医学書院） 成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える（南江堂）							
【成績評価】							
試験：90%、 課題、授業態度（出席状況含む）：10%							
担当講師の専門領域実務経験							
職・経験年数：担当科目についての実務経験あり							

授業科目	成人看護援助論Ⅳ (終末期)				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人生の最終段階にある対象が尊厳を持って個の特性に応じた人生を送ることができるための看護実践を学ぶ。</li> <li>2. Adolescent and Young Adult(AYA)、トランジションなどの健康課題について成人期からの連続性と今後の人生・生活への影響を踏まえて包括的にアセスメントし支援する方法を学ぶ。</li> </ol> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の生命の捉え方について学習する。</li> <li>2. 終末期にある人とその家族の特徴を理解する。</li> <li>3. 終末期にある人とその家族への援助方法について考えることができる。</li> <li>4. ターミナルケアの場と看護について考えることができる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期における医療の現状と概念（講義）</li> <li>2. 人間にとっての死、全人的苦痛、死とともに生きること（講義）</li> <li>3. 終末期の看護（講義）</li> <li>4. がん医療・がん看護の背景・がんサバイバーシップ・トランジション（移行期医療）</li> <li>5. がん患者のたどる経過と体験、看護の特徴（講義）</li> <li>6. がんの治療における薬物療法・薬物療法における看護</li> <li>7. がんの治療の場と看護・外来におけるがん看護</li> <li>8. がん医療における緩和ケア・がん患者の苦痛緩和の実際</li> <li>9. 人生会議（ACP）とは・尊厳死等</li> <li>10. 終末期（危機状況）にあるがん患者と家族の特徴、援助方法（講義）</li> <li>11. 終末期肺がん患者の事例（講義）</li> <li>12. 日本のがんの疫学データ・AYA世代への看護・検査の介助・放射線の被ばく防止策の実施</li> <li>13. 精神的安寧を保つためのケア・日本的終末期看護（講義）</li> <li>14. エンゼルケア（学内演習）</li> <li>15. 終了試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】講師作成資料  系統看護学講座 別巻 緩和ケア（医学書院）  系統看護学講座 別巻 がん看護学（医学書院）  ターミナルケアマニュアル 淀川キリスト教病院ホスピス編（最新医学社）</p> <p>【成績評価】  試験 80%  課題、授業態度 20%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験  職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	老年看護援助論 I				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
<p>老年期は、これまで個々の人生を積み重ね、その人らしさがより際立つ年代にある。また、人生の最終段階を生きる年代にある。これまで培ってきたその人らしさを尊重しつつ、身体的・心理的・社会的変化やスピリチュアリティ、発達課題をふまえ、健康レベルに応じた看護実践を学ぶ。</p>					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢と健康の関係について理解する。</li> <li>2. 健康な加齢と健康の逸脱について理解する。</li> <li>3. 高齢者特有の症状や疾患について学ぶ。</li> <li>4. 高齢者の健康障害リスク（転倒、嚥下障害等）についてアセスメントし、説明できる。</li> <li>5. 高齢者及び家族のセルフケア能力をアセスメントし、その人らしさを生かし、持てる力を最大限に発揮できる支援方法を理解できる。</li> <li>6. 高齢者がその人らしく生きるため、多様な健康レベルに応じて多職種や関係機関との連携・協働について考察できる。</li> <li>7. 認知症の高齢者の特性や看護について説明できる。</li> <li>8. 高齢者の尊厳と生活の質（Quality Of Life&lt;QOL&gt;）を支える看護について考察できる。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者のヘルスアセスメント【身体に加齢変化とアセスメント】（山崎）（講義）</li> <li>2. 加齢による生活への影響【転倒】（山崎）（講義）</li> <li>3. 加齢による生活への影響【廃用症候群】（山崎）（講義）</li> <li>4. 加齢による生活への影響【摂食嚥下】（山崎）（講義）</li> <li>5. 加齢による生活への影響【生活リズム】（山崎）（講義）</li> <li>6. 加齢による生活への影響【コミュニケーション】（山崎）（講義）</li> <li>7. 健康逸脱からの回復【症候のアセスメント】（山崎）（講義）</li> <li>8. 高齢者特有の疾患【脳卒中、心不全】（山崎）（講義）</li> <li>9. 高齢者特有の疾患【糖尿病、慢性閉塞性肺疾患、がん、パーキンソン】（山崎）（講義）</li> <li>10. 高齢者特有の疾患【インフルエンザ、肺炎、骨粗鬆症、骨折、認知症】（山崎）（講義）</li> <li>11. 治療を必要とする高齢者看護（長尾）（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 検査を受ける高齢者の看護</li> <li>2) 薬物療法を受ける高齢者の看護</li> </ol> </li> <li>12. 3) 手術を受ける高齢者の看護 4) リハビリテーションを受ける高齢者看護（長尾）（講義）</li> <li>13. ~14. 5) 入院治療を受ける高齢者看護 6) 継続看護（長尾）（講義）</li> <li>15. 試験</li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院）  系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論（医学書院）</p>					
【成績評価】					
<p>試験 90%、  授業態度・出席状況 10%</p>					
担当講師の専門領域実務経験					
職・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	老年看護援助論Ⅱ				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	講義・演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業内容】					
<p>老年期は、これまで個々の人生を積み重ね、その人らしさがより際立つ年齢にある。また、人生の最終段階を生きる年代にある。これまで培ってきたその人らしさを尊重しつつ、身体的・心理的・社会的変化やスピリチュアリティ、発達課題をふまえ、健康レベルに応じた看護実践を学ぶ。</p>					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者特有の身体的・心理的・社会的変化、個々の生活過程、価値観、スピリチュアリティを踏まえた包括的視野で高齢者をアセスメントできる。</li> <li>2. 高齢者の健康障害リスク（転倒、認知機能の低下、低栄養、嚥下障害等）についてアセスメントし、予防する看護を説明できる。</li> <li>3. 高齢者及び家族のセルフケア能力をアセスメントし、その人らしさを生かし、持てる力を最大限に発揮できる支援方法を理解できる。</li> <li>4. 高齢者がその人らしく生きるため、多様な健康レベルに応じて多職種や関係機関との連携・協働について考察できる。</li> <li>5. 認知症の高齢者の特性や看護について説明できる。</li> <li>6. 高齢者の尊厳と生活の質（Quality Of Life&lt;QOL&gt;）を支える看護について考察できる。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の生活機能を整える看護【日常生活を支える基本的活動・転倒】（講義・演習）</li> <li>2. 高齢者の生活機能を整える看護【食事・食生活】（講義・演習）</li> <li>3. 高齢者の生活機能を整える看護【排泄】（講義・演習）</li> <li>4. 高齢者の生活機能を整える看護【清潔】（講義・演習）</li> <li>5. 高齢者の生活機能を整える看護【生活リズム】（講義・演習）</li> <li>6. 高齢者の生活機能を整える看護【コミュニケーション・セクシュアリティ・社会参加】（講義・演習）</li> <li>7. 高齢者のリスクマネジメント1【高齢者と医療安全】（講義・演習）</li> <li>8. 高齢者のリスクマネジメント2【救命救急と災害】（講義・演習）</li> <li>9. 認知機能障害のある高齢者の看護（講義・演習）</li> <li>10. 生活・療養の場における看護（講義・演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者とヘルスプロモーション</li> <li>2) 保健医療福祉施設及び居住施設における看護</li> </ol> </li> <li>11. 3) 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護（講義・演習）</li> <li>12. 4) 多職種連携実践による活動（講義・演習）</li> <li>13. ～14. 看護過程の展開1【事例展開の実際】（講義・演習）</li> <li>15. 試験</li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院）  パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護実習ガイド（照林社）</p>					
【成績評価】					
<p>試験 70% , 演習 20%  授業態度・出席状況 10%</p>					
担当講師の専門領域実務経験					
職・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	老年看護援助論Ⅲ				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
超高齢多死社会においてエンド・オブ・ライフ・ケアを提供するために必要な知識・技術・態度を学び、多職種チームの一員として看護職が果たすべき役割について考える					
【達成目標】					
1. 老化の過程にある自然な死を理解することができる					
2. エンド・オブ・ライフにある高齢者を統合的にアセスメントすることができる					
3. 高齢者の症状マネジメント・痛みのマネジメントについて理解することができる					
4. 高齢者の尊厳を支えるための看護について理解することができる					
5. エンド・オブ・ライフ・ケアを提供する看護職に求められる基本的な態度や役割について考える					
【授業内容及び授業方法】					
1. 2. エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護(講義・GW)					
① エンド・オブ・ライフ・ケアの基本的な考え方					
② 老化の過程にある自然な死について					
③ 日本での死を取り巻く社会状況の変化と高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアにおける課題					
④ 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアにおける身体面・精神面・社会面・スピリチュアルな面からのアセスメント					
⑤ 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアにおける多職種チームアプローチの必要性と看護職の役割					
⑥ エンド・オブ・ライフ・ケアを提供する看護職に求められる基本的態度(ケアリング)					
3. 4. 症状マネジメント(講義・GW)					
① 症状マネジメントの視点					
② 症状マネジメントとケア：食事摂取量低下、便秘、呼吸困難、浮腫、褥瘡、せん妄、不安・抑うつ					
5. 6. 痛みのマネジメント(講義・GW)					
① エンド・オブ・ライフにある高齢者の痛みの特徴					
② 痛みの緩和を妨げる要因					
③ 高齢者の痛みのアセスメント項目					
④ 痛みを緩和するためのケア					
7. 8. エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的問題(講義・GW)					
① 倫理的問題の考え方					
② 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的問題が起る背景					
③ 意思決定プロセス					
④ 看護倫理に基づく高齢者ケアの実践					
9. 10. エンド・オブ・ライフ・ケアにおける文化(講義・GW)					
① 高齢者にとっての文化					
② 高齢者の個性や生き方、スピリチュアリティ					
③ エンド・オブ・ライフにある高齢者の文化的側面からのアセスメント					
④ チームメンバーの文化的背景					
11. 12. 高齢者の意思決定を支えるためのコミュニケーション(講義・GW)					
① 高齢者とのコミュニケーションの特徴と影響を及ぼす要因					
② 高齢者の意思決定を支えるためのコミュニケーションの重要性と看護職の役割					
③ 認知症高齢者とのコミュニケーション					
④ 家族とのコミュニケーション					
13. 喪失・悲嘆・死別(講義)					
① 喪失・悲嘆・死別とは					
② 老化による喪失・悲嘆とそのアセスメント・ケア					
③ 家族の喪失・悲嘆とそのアセスメント・ケア					
④ 医療・介護スタッフの喪失・悲嘆への対処					
14. 臨死期のケア(講義)					
① 高齢者における臨死期とは					
② 臨死期にある高齢者・家族に対する看護職の役割					
③ 臨終時とその後の対応					
【教科書・参考資料】					
講師テキスト準備配布					
【評価】					
試験	60%				
グループワーク	30%				
授業態度・出席状況	10%				
担当講師の専門領域実務経験					
職・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	小児保健				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>子どもを取り巻く社会の動向やライフサイクルにおける小児期の健康課題について理解し、現在・将来の小児看護の方向性について学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母子保健の動向から我が国の母子保健水準について理解する。</li> <li>2. さまざまな健康レベル・状況にある子どもと家族を支援するための法律、制度、施策について理解する。</li> <li>3. 病院や家庭、学校等、子どもが置かれている場・状況に応じた子どものニーズを捉えて必要な看護について理解する。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもと家族を取り巻く社会①（子どもと家族の諸統計、子どもを守る法律と制度）（講義）</li> <li>2. 子どもと家族を取り巻く社会②（予防接種、母子保健、学校保健）（講義）</li> <li>3. 子どもと家族（家族の特徴とアセスメント）（講義）</li> <li>4. 子どものアセスメント①（アセスメントに必要な技術）（講義・演習）</li> <li>5. 子どものアセスメント②（成長・発達の評価）（講義）</li> <li>6. 子どもの発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援①（動く、眠る、食べる、排泄する）（講義・演習）</li> <li>7. 子どもの発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援②（身だしなみを整える、見る、聞く、話す、遊ぶ、学ぶ）（講義・演習）</li> <li>8. 症状を示す子どもの看護①（発熱、嘔吐、下痢、脱水）（講義）</li> <li>9. 症状を示す子どもの看護②（けいれん、呼吸困難、意識障害）（講義）</li> <li>10. 検査・処置を受ける子どもの看護①（子どもにとっての検査・処置体験、プレパレーション）（講義）</li> <li>11. 検査・処置を受ける子どもの看護②（排泄、経管栄養、検体採取）（講義・演習）</li> <li>12. 特別な状況にある子どもと家族への看護①（障害のある子どもと家族への看護）（講義）</li> <li>13. 特別な状況にある子どもと家族への看護②（虐待を受けている子ども）（講義）</li> <li>14. 事故やけがの理解と応急処置（講義・演習）</li> <li>15. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）  系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験 80%  課題 20%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目の実務経験あり</p>					

授業科目	小児看護援助論 I				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
子ども特有の疾患の病態・症状・診断・治療について学ぶ。					
【達成目標】					
1. 小児期に多い疾患・小児に特有な疾患の病態生理、症状に対する診断・治療について理解する。					
2. 小児特有の健康障害と人間の反応について概説できる。					
3. 子どもの健康や病気について、どのような視点や課題があるのか理解する。					
【授業内容及び授業方法】					
1. 小児の疾患 1【免疫・アレルギー疾患、感染症】（講義）					
1) アレルギーの分類と発症機序、アレルギー性疾患					
2) 麻疹、風疹、ムンプス、水痘、髄膜炎、百日咳、溶血性連鎖球菌感染症					
2. 小児の疾患 2【呼吸器疾患】（講義）					
1) かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、RSウイルス感染症、百日咳、クループ、マイコプラズマ感染症、インフルエンザ（ワクチン、脳症含む）					
3. 小児の疾患 3【消化器疾患】（講義）					
1) 口唇・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、腸重積症、クローン病、外鼠径ヘルニア、胆道閉鎖症、鎖肛、急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎					
4. 小児の疾患 4【代謝・内分泌疾患、循環器疾患、腎疾患】（講義）					
1) 糖尿病、成長ホルモン分泌不全性低身長					
2) 先天性心疾患、川崎病、突然死					
3) 急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎性尿崩症					
5. 小児の疾患 5【血液疾患・悪性新生物、神経疾患、運動器疾患、その他】（講義）					
1) 貧血、血友病、白血病、神経芽腫、脳腫瘍					
2) 二分脊椎、熱性けいれん、てんかん、脳性麻痺、ダウン症候群					
3) 先天性股関節脱臼					
4) 事故・外傷					
6. 小児の疾患 6【神経疾患、その他】（講義）					
1) てんかんと脳波					
2) 発達障害、発育不全					
7. 予防接種（講義）					
8. 終了試験					
【教科書・参考書等】					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論（医学書院）					
【成績評価】					
試験 100%					
備考					
学習内容 1～7を14回の講義で教授する。学習内容 8（終了試験）は15回目とする。					
担当講師の専門領域実務経験					
職種：小児科医師					

授業科目	小児看護援助論Ⅱ				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
病気・障害を持つ子どもとその家族に対応したQOL向上への看護実践について学ぶ。					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気・障害をもつ子どもと家族の特徴と看護の役割を理解する。</li> <li>2. 入院や外来・在宅など小児を取り巻く環境や生活の場における看護について理解する。</li> <li>3. 疾病の経過と看護の特徴を理解する。</li> <li>4. 子どもの基本的特性を踏まえた症状アセスメントと看護を理解する。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護（講義）</li> <li>2. 入院している子どもと家族の看護（講義）</li> <li>3. 外来における子どもと家族の看護（講義）</li> <li>4. 在宅療養中の子どもと家族の看護（講義）</li> <li>5. 慢性期にある子どもと家族の看護（講義）</li> <li>6. 急性期にある子どもと家族の看護（講義）</li> <li>7. 周手術期の子どもと家族の看護（演習）</li> <li>8. 終末期の子どもと家族の看護（演習）</li> <li>9. 検査・処置を受ける子どもの看護①（与薬・輸液管理、呼吸症状の緩和）（講義・演習）</li> <li>10. 検査・処置を受ける子どもの看護②（救命処置）（講義・演習）</li> <li>11. 看護過程の展開（セルフケア看護理論）（講義）</li> <li>12. 看護過程の展開（白血病患児の看護1）（講義・演習）</li> <li>13. 看護過程の展開（白血病患児の看護2）（演習）</li> <li>14. 看護過程の展開（白血病患児の看護3）（演習）</li> <li>15. 試験</li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論（医学書院）					
【成績評価】					
試験 70%					
課題 30%					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目の実務経験あり					

授業科目	母性看護援助論 I				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>新たな生命を生ま育む過程にある女性とその子ども及び家族の健康と発達の促進に向けて、対象が持つ力を発揮するための援助に必要な基礎的な知識を習得する。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受精から細胞分裂、器官形成の過程について説明できる。</li> <li>2. 妊娠週数に応じた母体の心身の変化・特徴について説明できる。</li> <li>3. 妊娠週数に応じた胎児の成長・発達について説明できる。</li> <li>4. 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生直後の変化を説明できる。</li> <li>6. 出産の機序について説明できる。</li> <li>7. 分娩経過に応じた母体の心身の変化・特徴について説明できる。</li> <li>8. 産褥期の母体の心身の変化・特徴について説明できる。</li> <li>9. 新生児の身体・生理的特徴を説明できる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠の経過：〔妊娠の定義、妊娠の成立、胎児と妊婦の生理、妊婦の心理と家族・社会〕（講義）</li> <li>2. 妊娠期の看護①：〔妊娠経過の診断、妊婦と胎児及び家族のアセスメント〕（講義）</li> <li>3. 妊娠期の看護②：〔妊娠期の保健相談〕（講義）</li> <li>4. 妊娠期の看護③：〔親になるための準備教育〕（講義）</li> <li>5. 分娩の経過①：〔分娩の定義、分娩の三要素、分娩の機序〕（講義）</li> <li>6. 分娩の経過②：〔分娩進行、産痛、胎児への影響、産婦の身体的・心理社会的変化〕（講義）</li> <li>7. 分娩期の看護①：〔産婦と胎児及び家族のアセスメント〕（講義）</li> <li>8. 分娩期の看護②：〔産婦と胎児及び家族のアセスメント〕（講義）</li> <li>9. 産褥の経過：〔産褥の定義、産褥の身体的・心理社会的変化、産褥のアセスメント〕（講義）</li> <li>10. 産褥期の看護：〔産褥と家族の看護〕（講義）</li> <li>11. 新生児の生理：〔新生児の定義、分類、機能〕（講義）</li> <li>12～14. 新生児期の看護：〔新生児の診断、新生児看護の原則、新生児のアセスメントとケア〕（講義）</li> <li>15. 終了試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	母性看護学援助論Ⅱ				
開講時期	2年次 後期	方法・単位	講義・演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児におよぼす問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常のメカニズムと対象に及ぼす影響を理解する。</li> <li>2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常について、安全・安楽のための看護を説明できる。</li> <li>3. ハイリスク妊婦・産婦・褥婦・新生児の家族を支援する方法を考えることができる。</li> <li>4. ハイリスク妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族を支えるための、多職種との連携・協働について考えることができる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハイリスク妊婦 妊娠期の異常 切迫流早産・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病ほか（講義）（毛山）</li> <li>2. 妊娠疾患・異常妊娠 妊娠期の感染症（講義）（毛山）</li> <li>3. 妊娠期の異常 切迫流早産・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病ほか（毛山）</li> <li>4. 分娩 分娩期の異常 分娩停止・弛緩出血ほか（毛山）</li> <li>5. 分娩の異常（産道・娩出力・胎児と付属物）（講義）（毛山）</li> <li>6. 分娩の異常（分娩経過と異常出血）（講義）（毛山）</li> <li>7. 産科的処置と産科手術（講義）（毛山）</li> <li>8. 産褥 産褥期の異常 産褥熱・血栓症・産後うつほか（眞鍋）</li> <li>9. 新生児 新生児の生理と新生児期の異常（眞鍋）</li> <li>10～11. ハイリスク妊婦の看護（講義）（眞鍋）</li> <li>12. 異常分娩時の産婦の看護（講義）（眞鍋）</li> <li>13. 産褥の異常と看護（講義）（眞鍋）</li> <li>14. 新生児の異常と看護（講義）（眞鍋）</li> <li>15. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考資料等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学【2】母性看護学各論</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	母性看護援助論演習				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、性と生殖の特徴を踏まえた健康を支えるための看護実践を学ぶ。周産期にある人は、身体的・心理的・社会的変化や家族の変化への適応を求められるため、これらの特性を踏まえて妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における対象者や家族に対する看護実践と保健指導を学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 性の多様性をアセスメントできる。</li> <li>2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から対象者の社会生活を支える看護を説明できる。</li> <li>3. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的・心理的・社会的特性と生理的変化について理解し、アセスメントできる。</li> <li>4. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者のヘルスプロモーションを理解し、看護を実践できる。</li> <li>5. 母子の健康生活を支えるケアや支援、母子保健のシステムが理解できる。</li> <li>6. 親子の愛着形成と発達課題、家族に及ぼす影響を理解し、家族の発達を支える看護が理解できる。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護に必要な援助、技術について（講義）</li> <li>2. 妊娠期の看護・妊婦健診（妊婦体験、腹囲測定、子宮底長測定）（演習）</li> <li>3. 分娩期（分娩各期の援助）（演習）</li> <li>4. 産褥期（褥婦のバイタルサイン測定、産褥日数に応じた変化の観察とアセスメント）（演習）</li> <li>5. 産褥期（褥婦のバイタルサイン測定、産褥日数に応じた変化の観察とアセスメント）（演習）</li> <li>6. 新生児（身体計測、バイタルサイン測定、全身の観察）（演習）</li> <li>7. 新生児（沐浴、更衣、おむつ交換）（演習）</li> <li>8. 新生児（沐浴、更衣、おむつ交換）（演習）</li> <li>9. 事例を通じた具体的な看護過程の展開（演習）</li> <li>10～11. 事例の情報収集とアセスメント、看護目標の設定とケアプラン作成（演習）</li> <li>12～13. 保健指導案作成・発表（演習）</li> <li>14. 技術チェック・科目終了試験</li> <li>15. 技術チェック・科目終了試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術（メヂカルフレンド社）</p> <p>【成績評価】</p> <p>技術試験40%・筆記試験40% 演習態度・提出物20%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	精神保健				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
【学習目的】					
<p>こころの健康についてはストレスが多い現代社会において、さまざまな分野で学ばれ活用されている。ここでは、医療・看護・福祉の総合的視点から精神保健医療福祉について学び、課題を抱えながらも健康に生きていくことはどういふことなのかを学ぶ。</p>					
【学習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>あらゆるライフステージにある人を対象として、健康・医療・福祉の統合を視野に入れて、こころの健康障害時の看護について理解できる。</li> <li>精神看護を理解するために、こころの健康について理解を深め、精神看護の目的・機能・実践を支える理論について理解できる。</li> </ol>					
【学習内容】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>こころの健康と障がい（講義）</li> <li>こころの危機とストレス（講義・演習）</li> <li>災害とこころのケア（講義）</li> <li>看護師のメンタルヘルス（講義）</li> <li>社会と精神保健①（学校・職場の精神保健）（講義・演習）</li> <li>社会と精神保健②（地域の精神保健）（講義・演習）</li> <li>社会と精神保健③（アディクション）（講義・演習）</li> <li>終了試験</li> </ol>					
【使用テキスト】					
<p>系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院  系統看護学講座 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院</p>					
【評価方法】					
<p>筆記試験（80%）  授業態度（20%）</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験  職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	精神看護援助論 I				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習 1単位	時間数	30時間
【学習目的】					
精神疾患の診断・検査方法・治療について理解し、その知見にもとづき患者の看護の実際と問題点について学ぶ。また、精神の健康上の問題に直面している対象の援助技術、対応方法について学ぶ。					
【学習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の健康上の問題に直面している対象者の疾患・症状および生活行動上の問題に対する看護について理解できる。</li> <li>2. 精神の健康上の問題に直面している対象者の治療過程に応じた看護について理解できる。</li> <li>3. 精神の健康上の問題に直面している対象者への看護過程の展開について理解できる。</li> </ol>					
【学習内容】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神症状とは（講義） [堀尾]</li> <li>2. 主な精神科治療と看護①（薬物療法・電気けいれん療法）（講義） [堀尾]</li> <li>3. 主な精神科治療と看護②（精神療法）（講義） [堀尾]</li> <li>4. 主な精神科治療と看護③（環境療法・社会療法）（講義） [堀尾]</li> <li>5. 精神障害を抱える対象理解と看護①（統合失調症）（講義） [溝依]</li> <li>6. 精神障害を抱える対象理解と看護②（気分障害）（講義） [溝依]</li> <li>7. 精神障害を抱える対象理解と看護③（神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害）（講義） [溝依]</li> <li>8. 精神障害を抱える対象理解と看護④（生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリティ障害）（講義） [溝依]</li> <li>9. メンタルヘルスアセスメント（講義） [上総]</li> <li>10. オレム-アンダーウッドのセルフケア理論（講義） [上総]</li> <li>11. 看護過程演習①（アセスメント）（演習） [上総]</li> <li>12. 看護過程演習②（全体像）（演習） [上総]</li> <li>13. 看護過程演習③（計画立案）（演習） [上総]</li> <li>14. 総括（講義） [上総]</li> <li>15. 終了試験</li> </ol>					
【使用テキスト】					
系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院					
【評価方法】					
筆記試験（80%） 学習課題、授業態度（20%）					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	精神看護援助論Ⅱ				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的】 精神の健康上の問題に直面している対象とその家族への援助技術、対応方法について学ぶ。また、地域生活を支えるために、看護師はどのような姿勢と視点を持っているのかを学ぶ。					
【学習目標】 1. 精神の健康上の問題に直面している対象者の病態像への理解を深め、具体的な対応について理解できる。 2. 精神の健康上の問題に直面している対象者への効果的な看護技術が習得できる。 3. プロセスレコード演習をととして関係性を振り返り、自己理解や対象理解について学ぶ。					
【学習内容】 1. 精神科における看護の役割（講義） [上田] 2. 精神科病院における治療的環境（行動制限と権利擁護）（講義） [上田] 3. 精神科病院における治療と看護（チーム医療、退院調整）（講義） [上田] 4. 地域における精神看護（講義） [佐野] 5. 精神科看護における援助方法①（ストレング、リカバリー、エンパワメント、レジリエンス）（演習） [永尾] 6. 精神科看護における援助方法②（家族ケア）（演習） [永尾] 7. 精神科看護におけるリハビリテーション①（ケアマネジメント、社会資源の活用）（講義） [永尾] 8. 精神科看護におけるリハビリテーション②（SST、認知行動療法）（講義） [永尾] 9. 精神科におけるリスクマネジメント（講義） [永尾] 10. 精神科以外での精神看護（身体合併症、リエゾン精神看護）（講義） [武田] 11. 精神障害当事者のナラティブ、交流（演習） [武田] 12. プロセスレコード①（講義） [上総] 13. プロセスレコード②（演習） [上総] 14. 総括（講義） [上総] 15. 終了試験					
【使用テキスト】 系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院					
【評価方法】 筆記試験（80%） 学習課題、授業態度（20%）					
担当講師の専門領域実務経験 職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	成人看護学実習 I (急性期)				
開講時期	3年次 前期	方法・単位	実習・2単位	時間数	90時間
<p>【実習目的】 急性期ある成人患者の身体的・心理的状況や対象者の社会的背景を理解し、対象者の尊厳を守りながら回復を促進する看護援助を学ぶ。急性期医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期にある患者の看護の特徴を理解し、患者の回復を促進するための看護援助ができる。</li> <li>2. 救急看護の役割と援助について理解することができる。</li> <li>3. 多職種チームの一員としての看護の役割について考えることができる。</li> </ol> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟実習（集中治療室・一般病棟） 受け持ち患者をもち、看護過程を展開する。 多職種チームカンファレンスに参加し、看護の役割について考察する。</li> <li>2. 学内実習 急性期医療に関わる部門での看護を考え、実践する。</li> </ol> <p>【評価方法】 受け持ち患者に対する看護からの学び、実習態度、カンファレンスへの参加状況、レポート、出席状況などから総合的に評価する。</p> <p>詳細は実習要項を参照</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	成人看護学実習Ⅱ (回復期)				
開講時期	3年次 前期	方法・単位	実習・2単位	時間数	90時間
<p>【実習目的】 成人期にある患者の特徴を踏まえ、回復期にある患者の回復過程を理解し、生活の自立を目指した看護を実践することができる。回復期医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 回復期にある患者の看護の特徴が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 回復期の概念が説明できる。</li> <li>2) 回復期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴及び家族の特徴が説明できる。</li> <li>3) 回復期にある患者・家族への看護が説明できる。</li> </ol> </li> <li>2. 回復期にある患者が自立した生活を送ることができるような看護を展開できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 回復期にある受け持ち患者の情報収集ができる。</li> <li>2) 回復期にある受け持ち患者が自立した生活をおくれるような援助計画が立案できる。</li> <li>3) 回復期にある受け持ち患者が自立した生活をおくれるような援助が実施できる。</li> </ol> </li> <li>3. 多職種チームの一員としての看護の役割について考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 回復期にある患者・家族のケアマネジメントが説明できる。</li> <li>2) 回復期にある患者・家族の生活の再構築を支える制度が説明できる。</li> <li>3) 回復期にある患者・家族の抱える課題解決のため、チームアプローチに参加できる。</li> </ol> </li> </ol> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開し個別的な看護実践を行う。</li> <li>家族や多職種との関わりから退院支援における看護援助の必要性について考察する。</li> </ul> </li> </ol> <p>【評価方法】</p> <p>実習内容、実習態度、実習記録など、実習目標に照らし合わせ総合的に評価する。</p> <p>詳細は実習要項を参照</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	成人看護学実習Ⅲ (慢性期)				
開講時期	2年次 後期	方法・単位	実習・2単位	時間数	90時間
【実習目的】 成人期にある患者の特徴を踏まえ、慢性の経過をたどり生涯にわたり病状・生活のコントロールを必要とする患者および家族を理解し、看護を展開することができる。慢性期医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。					
【実習目標】 1. 成人期にある患者の特徴が分かる。 2. 慢性期にある患者の看護の特徴が理解できる。 3. 慢性期にある患者が病状をコントロールしながら生活を送ることができるような看護を展開できる。 5. 慢性期にある患者・家族と良好な関係が築ける。 6. 多職種チームの一員としての看護の役割について考え、実践することができる。					
【実習内容】 病棟実習において受け持ち患者をもち、看護過程を展開する。 多職種チームカンファレンスに参加し、看護の役割について考察する。 退院支援における保健・医療・福祉との連携と協働について考察する。 外来にて透析治療や糖尿病の指導、化学療法の実際を見学し、継続看護について学ぶ。					
【評価方法】 受け持ち患者に対する看護からの学び、実習態度、カンファレンスへの参加状況、レポート、出席状況などから総合的に評価する。  詳細は実習要項を参照					
担当講師の専門領域実務経験 職・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	老年看護学実習 I				
開講時期	2年次 後期	方法・単位	実習・2単位	時間数	90時間
<p>【実習目的】</p> <p>高齢者を総合的・多角的に理解し、その人の生活環境に焦点をあてた医療・ケアについて考える。 また、高齢者の基本的ニーズを充足するための看護及び慢性期・終末期を支えるための看護の展開ができる基礎的能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢による変化を踏まえ、高齢者の特徴を理解できる。</li> <li>2. 高齢者の生活史を理解し、信条・信念・価値観を尊重した看護上の問題が明らかになる。</li> <li>4. 高齢者の機能の変化を理解し、看護上の問題に沿った日常生活の援助が実践できる。</li> <li>5. 高齢者への看護実践を通して、老化の先に死があり、その人のよりよいエンド・オブ・ライフ・ケアへの考えをまとめることができる。</li> </ol> <p>【実習内容】</p> <p>病棟実習（一般病棟）</p> <p>病棟実習において受け持ち患者をもち、看護過程を展開する。 多職種チームカンファレンスに参加し、看護の役割について考察する。 退院支援における保健・医療・福祉との連携と協働について考察する。 実習を通して、高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアについて考察する。</p> <p>【評価方法】</p> <p>受け持ち患者に対する看護からの学び、実習態度、、カンファレンスへの参加状況、レポート、出席状況などから総合的に評価する。</p> <p>詳細は実習要項を参照</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	老年看護学実習Ⅱ				
開講時期	3年次 前期	方法・単位	実習・2単位	時間数	90時間
<p>【実習目的】  高齢者を総合的・多角的に理解し、認知症高齢者に相応しい医療・ケアについて考え、その人らしさを大切にした看護が展開できる基礎的能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢による変化を踏まえ、認知症高齢者の特徴を理解できる。</li> <li>2. 認知症高齢者の生活史を理解し、信条・信念・価値観を尊重した行動が看護上の問題が明らかになる。</li> <li>3. 認知症高齢者のQOL（生活・人生の質）を考慮した、日常生活の援助ができる。</li> <li>4. 認知症高齢者の健康生活を支えている社会資源について理解できる。</li> </ol> <p>【実習内容】  病棟実習（認知症病棟）  承諾の得られた受け持ち患者を受け持ち、看護の展開を行う。  受け持った患者を中心として病棟で行われているレクリエーションなどに参加できる。  行った看護実践について振り返り修正することができる。</p> <p>【評価方法】  受け持ち患者に対する看護からの学び、実習態度、カンファレンスへの参加状況、レポート、出席状況などから総合的に評価する。</p> <p>詳細は実習要項を参照</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験  職・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	小児看護学実習				
開講時期	2年次 後期	方法・単位	実習・2単位	時間数	90時間
【実習目的】 各発達段階と健康レベルにある子どもおよび家族の健康問題を、保健・医療・福祉・教育の視点から幅広く捉え、必要な看護援助を展開する。また、子どもの医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。					
【実習目標】 1. 健康な子どもの発達段階の特徴を知り、その発達段階に応じた保育的な働きかけを理解する。 2. 各期の発達段階別の健康障害をもつ子ども及び家族の看護問題を捉え、必要な援助を展開する。 3. 子どもの保健・医療・福祉・教育について理解し、幅広く健康問題を捉え、小児看護の役割を理解する。					
【実習内容】 病院実習 病棟：受け持ち患児をもち、看護過程を展開する。 多職種チームカンファレンスに参加し、看護の役割について考察する。 外来：外来看護を見学・体験し、継続看護および保健・医療・福祉・教育との連携・協働について考察する。 施設実習（放課後等デイサービス） 施設見学において、発達障害をもつ子ども・その家族への関わりを体験し、保健・医療・福祉・教育との連携・協働について考察する。 保育園実習 保育園において、健康な子ども（年齢に応じたクラスに分かれて）・その家族への関わりを体験し、小児の発達段階に応じた保育的な働きかけについて考察する。					
【評価方法】 受け持ち患者に対する看護からの学び、実習態度、カンファレンスへの参加状況、レポート、出席状況などから総合的に評価する。  詳細は実習要項を参照					
担当講師の専門領域実務経験 職種・経験年数：担当科目の実務経験あり					

授業科目	母性看護学実習				
開講時期	2年次後期	方法・単位	実習・2単位	時間数	90時間
【実習目的】					
マタニティーサイクルにある女性と新生児を受け持ち、既習の知識・技術に基づいた看護の展開を通して、母性看護の対象理解を深め、女性・子ども・家族の健康に関する課題と看護の役割について考えを深める。					
【実習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の正常な経過が理解できる。</li> <li>2. 分娩期の正常な母子の経過を理解し、産婦の援助ができる。</li> <li>3. 分娩各期に応じた特徴を把握し、その段階に応じた看護を理解する。</li> <li>4. 産褥期の正常な母子の経過を理解し援助ができる。</li> <li>5. 新生児の特徴に応じた看護を理解する。</li> <li>6. 妊産婦の退院後の生活に応じた保健指導ができる。</li> <li>7. 生命誕生に立ち会うことにより、人間の神秘や生命の尊厳について考えることができる。</li> </ol>					
【実習内容】					
病院実習					
<p>病棟：受け持ち妊産婦をもち、看護過程を展開する。</p> <p>多職種チームカンファレンスに参加し、看護の役割について考察する。</p> <p>分娩各期の見学と各期の援助の日調整、実際を見学する。</p> <p>分娩時の援助、分娩進行に伴う産婦の苦痛の軽減を行う。</p> <p>カンガルーケア、産褥の経過確認と褥婦の看護、乳房マッサージ</p> <p>出生直後の新生児ケアを行う。生後日数に応じた新生児ケアを行う。</p> <p>外来：外来看護を見学・体験し、妊婦の健康診査、保健指導の実際を学ぶ。</p> <p>継続看護および保健・医療・福祉・教育との連携・協働について学ぶ。</p> <p>妊娠各期の身体的・心理的变化、妊娠各期の保健指導の実際、妊娠各期に起こりやすい異常や予防などについて学ぶ。</p>					
【評価方法】					
受け持ち患者に対する看護からの学び、実習態度、カンファレンスへの参加状況、レポート、出席状況などから総合的に評価する。					
詳細は実習要項を参照					
担当講師の専門領域実務経験					
職・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	精神看護学実習				
開講時期	2年次後期	方法・単位	実習・2単位	時間数	90時間
【実習目的】					
精神疾患を抱え、日常生活や対人関係に障害をきたしている対象者を理解し、治療的患者－看護師関係をもとに展開される精神科看護の実践を通して、看護の方法と役割を学ぶ。更に、精神科におけるチーム医療や他職種との連携について学ぶ。					
【実習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神疾患が、患者の心理状態や日常生活にどのように影響しているかを把握することができる。</li> <li>2. 対象者を一個人として理解するとともに、対象者・看護師関係のあり方について考えることができる。</li> <li>3. 対象者は地域社会での生活者であることを理解し、問題解決のための看護過程を展開することができる。</li> <li>4. 精神科における治療及び社会復帰活動についての援助の方法を理解することができる。</li> <li>5. 精神科病棟の環境や管理の方法と治療・看護の関連を理解することができる。</li> <li>6. 対象者を支援する様々な精神科専門職種の関連、看護師の役割と機能を理解することができる。</li> </ol>					
【実習内容】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟実習（急性期精神科病棟） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 急性期精神科病棟において承諾の得られた患者を受け持ち、主に患者の1日のスケジュールに沿って行動する。</li> <li>2) 受け持ち患者との関わりを通して得た情報や、看護師や他職種、家族からの情報を基に、受け持ち患者のアセスメントと患者像の作成を行う。</li> <li>3) 受け持ち患者の看護上の目標を考え、実習指導者や担当看護師、教員の助言を受けながら看護援助の計画・実施・評価を行う。</li> <li>4) 援助関係形成の技術の習得と自己理解のために、受け持ち患者とのコミュニケーションをプロセスレコードなどで振り返る。</li> <li>5) 多職種チームカンファレンスに参加し、看護の役割について考察する。</li> <li>6) 退院支援における保健・医療・福祉との連携と協働について考察する。</li> <li>7) 受け持ち患者について理解したことや実践した看護について病棟で発表し、チームと共有する。</li> </ol> </li> <li>2. デイケア実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習期間中にデイケアのプログラムに1日参加して、デイケアメンバーと共に行動する。</li> <li>2) 社会復帰活動の実際を見学し、看護の役割を考察する。</li> </ol> </li> </ol>					
【評価方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習評価：受け持ち患者に対する看護からの学び、実習態度、カンファレンスへの参加状況、記録物の内容などから総合的に評価する。</li> <li>2. 評価基準：実習目標の達成度、実習態度（カンファレンスでの参加状況、出席状況も含む）、記録物の提出およびその内容、レポート</li> </ol>					
詳細は実習要項を参照					
担当講師の専門領域実務経験					
職・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	在宅看護概論				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	15時間
<p>【学習目標・授業の概要】</p> <p>在宅看護の現状や社会の動向を知り、在宅療養者と家族が住み慣れた地域で生活できるための在宅ケアシステムと看護活動について学ぶ。また、在宅ケアシステムにおける多職種協働と看護の役割について学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の対象である療養者と家族の特性について説明できる。</li> <li>2. 在宅看護の役割・機能について説明できる。</li> <li>3. 在宅療養者と家族の生活を支える制度や社会資源について説明できる。</li> <li>4. 在宅看護において必要な多職種との協働とそれの中での看護師の役割について説明できる。</li> </ol> <p>【学習内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々の暮らしと地域・在宅看護（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人々の暮らしの理解</li> <li>2) 地域・在宅看護の役割</li> </ol> </li> <li>2. 暮らしの基盤としての地域の理解（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 暮らしと地域</li> <li>2) 暮らしと地域を理解するための考え方</li> <li>3) 地域包括ケアシステムと地域共生社会</li> </ol> </li> <li>3. 地域・在宅看護の対象（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域・在宅看護の対象者</li> <li>2) 家族の理解</li> <li>3) 地域に暮らす対象者の理解と看護</li> </ol> </li> <li>4～5. 地域における暮らしを支える看護（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 暮らしを支える地域・在宅看護</li> <li>2) 暮らしの環境を整える看護</li> <li>3) 広がる看護の対象と提供方法</li> <li>4) 地域における家族への看護</li> <li>5) 地域におけるライフステージに応じた看護</li> <li>6) 地域での暮らしにおけるリスクの理解</li> <li>7) 地域での暮らしにおける災害対策</li> </ol> </li> <li>6～7. 地域・在宅看護に関わる制度とその活用（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護保険・医療保険制度</li> <li>2) 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制</li> <li>3) 訪問看護の制度</li> <li>4) 地域保健にかかわる法制度</li> <li>5) 高齢者に関する法制度</li> <li>6) 障害者・難病に関する法制度</li> <li>7) 公費負担医療に関する法制度</li> </ol> </li> <li>8. 科目終了試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	在宅看護援助論 I				
開講時期	2年次 前期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>在宅看護を展開するために必要な信頼関係形成のための技術、日常生活援助技術、医療管理技術など、在宅において特有な看護技術に関する知識や方法を学ぶ。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者・家族との信頼関係形成スキルを理解する。</li> <li>2. 在宅生活を維持するための日常生活援助技術を身につける。</li> <li>3. 在宅療養者の症状・状態に合った看護援助技術を身につける。</li> <li>4. 地域での終末期看護について理解する。</li> <li>5. 在宅療養における医療管理技術を身につける。</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <p>【地域・在宅で看護を展開するための看護実践】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅での看護活動を支えるコミュニケーション（講義）</li> <li>2. 療養環境調整に関する地域・在宅看護技術（講義）</li> <li>3. 活動・休息に関する地域・在宅看護技術（講義）</li> <li>4. 栄養・食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術（講義）</li> <li>5. 排泄に関する地域・在宅看護技術（講義）</li> <li>6. 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術（講義）</li> <li>7. 苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術（講義）</li> <li>8. 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術（講義）</li> <li>9. 創傷管理に関する地域・在宅看護技術（講義）</li> <li>10. 与薬に関する地域・在宅看護技術（講義）</li> <li>11. エンドオブライフケアに関する地域・在宅看護技術（講義）</li> <li>12.13.14. 実技演習</li> <li>15. 科目終了試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 地域・在宅看護の実践（医学書院）</p> <p>【成績評価】</p> <p>試験100%</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	在宅看護援助論Ⅱ				
開講時期	2年次 前期・後期	方法・単位	演習・2単位	時間数	60時間
【学習目的・授業の概要】					
在宅で看護を必要としている療養者および家族の潜在能力を最大限に活用し、在宅生活を継続するための看護援助方法を学ぶ。また、在宅移行支援における多職種協働と看護の役割について学ぶ。					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者と家族の潜在能力を最大限に活用した看護援助方法を理解する。</li> <li>2. 在宅療養者と家族が住みなれた地域での生活が継続できるように支援する方法を理解する。</li> <li>3. 在宅移行支援方法について学び、多職種協働における看護の役割について考えることができる。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1・2 在宅看護の展開1【在宅看護展開のポイント】(小野) (講義)</li> <li>3・4 在宅看護の展開2【在宅看護過程の展開方法】(小野) (講義)</li> <li>5. 在宅看護の展開3【多職種連携・チームでの協働】(岡本) (講義)</li> <li>6・7 在宅看護の展開4【地域・在宅看護における対象者の安全をまもる看護】(杉村) (講義)</li> <li>8. 在宅看護の展開5【対象者(家族も含む)の権利保障】(杉村) (講義)</li> <li>9・10 在宅看護の実際1【地域・在宅看護の療養時期別の看護の実際】(小野) (講義)</li> <li>11・12 在宅看護の実際2【脳卒中の療養者の事例展開】(小野) (演習)</li> <li>13・14 在宅看護の実際3【パーキンソン病の療養者の事例展開】(山下) (講義)</li> <li>15 試験</li> <li>16・17 在宅看護の実際4【認知症高齢者の事例展開】(杉村) (講義)</li> <li>18・19 在宅看護の実際5【医療的ケア児の事例展開】(小野) (演習)</li> <li>20・21 在宅看護の実際6【ALSの療養者の事例展開】(小野) (演習)</li> <li>22・23 在宅看護の実際7【COPDの療養者の事例展開】(小野) (演習)</li> <li>24・25 在宅看護の実際8【脊髄損傷療養者の事例展開】(小野) (演習)</li> <li>26・27 在宅看護の実際9【終末期(がん)の療養者の事例展開】(小野) (演習)</li> <li>28・29 在宅看護の実際10【統合失調症の療養者の事例展開】(杉村) (講義)</li> <li>30 科目終了試験</li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 (医学書院) 関連図で理解する在宅看護過程 第2版 (メヂカルフレンド社)					
【成績評価】					
試験 60% 演習(参加・達成状況、課題提出) 30% 授業態度(出席状況含む) 10%					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	看護研究Ⅱ				
開講時期	3年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的】 講義や実習を通して関心を持った看護現象に焦点を当て、その現象に関する既存の研究論文その他の文献を分析し、研究テーマを抽出し計画を立て研究を実践する。一連の研究プロセスを経験することで、科学的思考力や判断力などを養う。					
【学習目標】 看護研究テーマの発見から、研究論文完成に至る研究のプロセスを指導の基に行うことで、以下の能力を習得する。 1. 関心のある看護現象の焦点化を図り研究テーマを決めることができる 2. 研究計画を立てることができる 3. 倫理的な視点で研究計画を立てることができる 4. データの収集、分析について学ぶことができる 5. データを収集し分析することができる 6. 結果に基づき既存の文献を活用して考察し、論文としてまとめることができる					
【学習内容】 講義や実習を通し関心を持った看護現象に関する領域を選択し、教員の指導の基に研究計画を立て研究を開始する。 スケジュールは各教員の指導により若干異なるが、目安となるスケジュールは下記のとおりである。 1・2：看護研究に関する教員の総括講義・オリエンテーション、関心のある領域の看護現象の決定とチーム編成 3・4：研究計画書作成 5・6：研究計画書発表会 7～10：研究計画書完成、データ収集、データ分析 11～13：考察、論文として完成、 14・15：研究発表会で発表					
【使用テキスト】 看護における研究 第2版 講師作成資料					
【評価方法】 研究計画書（30%） 研究論文（50%） グループワーク参加状況（20%）					
担当講師の専門領域実務経験 職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	チーム医療				
開講時期	3年次 前期	方法・単位	講義・演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
医療従事者としてチーム医療に必要な知識を習得し、医療従事者間の連携や協働について学ぶ。また、実習で体験したチーム医療の現状とチーム医療の知識を統合し、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップについて理解する。					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健・医療・福祉チーム員の機能と専門性、チーム医療の中での看護の役割について説明できる。</li> <li>2. 対象者を中心とするチームの構築方法について説明できる。</li> <li>3. チーム医療の中での、相互の尊重・連携・協働について説明できる。</li> <li>4. チーム医療の中で効果的な話し合いをするための方法について説明できる。</li> <li>5. 在宅医療を推進するために、保健・医療・福祉機関の連携・協働を含めた看護の活動・役割について説明できる。</li> <li>6. 継続看護、退院支援・退院調整等、地域の関連機関と協働関係を形成する看護援助方法について説明できる。</li> <li>7. 他のチーム員と適切なコミュニケーションをとる必要性を理解し、指導の下で実践できる。</li> <li>8. チームの一員として、報告・連絡・相談の必要性を理解し、指導の下で実践できる。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム医療の概念(講義) (近森)</li> <li>2. リハビリテーションチームにおけるチーム医療(講義) (前田)</li> <li>3. 栄養サポートチームにおけるチーム医療(講義) (宮島)</li> <li>4. 薬剤チームにおけるチーム医療(講義) (筒井)</li> <li>5. 臨床検査チームにおけるチーム医療(講義) (近澤)</li> <li>6. 放射線科チームにおけるチーム医療(講義) (中村)</li> <li>7. 工学関連部門におけるチーム(講義) (平野)</li> <li>8. ソーシャルワーク部門におけるチーム医療(講義) (西本)</li> <li>9. 看護部門におけるチーム医療(講義) (吉永)</li> <li>10. 退院調整部門における地域との連携(講義) (吉永)</li> <li>11. 多職種連携の実際1. (演習) (吉永)</li> <li>12. 多職種連携の実際1. (演習) (吉永)</li> <li>13. 多職種連携の実際2. (演習) (吉永)</li> <li>14. 多職種連携の実際2. (演習) (吉永)</li> <li>15. まとめ(講義)</li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
必要な場合講師準備・配布					
【成績評価】					
レポート 70%					
グループワーク、個人プレゼン 30%					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	看護管理				
開講時期	3年次 前期	方法・単位	講義/演習・1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的・授業の概要】</p> <p>医療チームの一員として組織的・効果的に看護を提供するための看護管理の基本概念を学び、より質の高い看護サービスを提供するための課題発見力・課題達成力・評価能力を習得する。</p> <p>【達成目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護マネジメントの必要性と意義について述べるができる</li> <li>2. 看護ケアのマネジメントと、看護サービスのマネジメントの特徴を説明できる</li> <li>3. 看護管理におけるリーダーシップ・メンバーシップの重要性を理解できる</li> <li>4. 組織の一員として働く意識と看護師のキャリアについて理解できる</li> </ol> <p>【授業内容及び授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護マネジメントについて（講義）</li> <li>2. 組織の成り立ちと病院の基本構造（講義）</li> <li>3. 看護サービスの提供（講義）</li> <li>4. 人的資源の管理（労務管理）（講義）</li> <li>5. 日常業務のマネジメント（講義）</li> <li>6. 施設・環境・物品のマネジメント（講義）</li> <li>7. 情報のマネジメント（講義）</li> <li>8. 医療安全とマネジメント（講義）</li> <li>9. 看護管理者の求められる能力 セルフマネジメント（講義）</li> <li>10. 看護管理者の求められる能力 リーダーシップ（講義）</li> <li>11. 12 看護師のキャリア（講義）</li> <li>13. 看護を取り巻く諸制度 看護職の法的責任（講義）</li> <li>13. 看護管理課題学習（演習）</li> <li>14. 看護管理課題学習（演習）</li> <li>15. 試験</li> </ol> <p>【教科書・参考書等】</p> <p>系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院  系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院</p> <p>【成績評価】</p> <p>筆記試験（70%）、レポートおよび演習（20%）、授業態度・出席状況（10%）</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験</p> <p>職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					

授業科目	災害看護・演習 I				
開催時期	3年次 前期	方法・単位	講義・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業概要】					
災害が市民の健康や生活に及ぼす影響について学び、災害発生直後から始まる災害医療における看護職の役割、医療チームにおける他職種との連携について学ぶ。					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の種類や災害サイクル、地域防災計画、支援体制について理解できる。</li> <li>2. 災害時の医療救護活動のフェーズ（超急性期、急性期、亜急性期、慢性期、静穏期）と各期の看護について理解できる。</li> <li>3. 被災状況や放射線災害が及ぼす健康影響について把握する方法を理解できる。</li> <li>4. 災害時の医療救護活動の基本であるCSCATTTについて理解できる。</li> <li>5. 災害時の医療と看護（災害拠点病院、災害派遣医療チーム&lt;DMAT&gt;、災害派遣精神医療チーム&lt;DPAT&gt;、日本医師会災害医療チーム&lt;JMAT&gt;、災害時健康危機管理支援チーム&lt;DHEAT&gt;、災害援助対応チーム&lt;DART&gt;、日本栄養士会災害支援チーム&lt;JDA-DAT&gt;）と看護の役割を理解する。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害とは、災害と生活（工藤）（講義）</li> <li>2. 災害の概要：被災者の生活と健康（工藤）（講義）</li> <li>3. 災害直後の救急救命活動と看護師の役割：病院機能の維持（工藤）（講義）</li> <li>4. 災害看護概論（工藤）（講義）</li> <li>5. 災害看護と倫理（工藤）（講義）</li> <li>6. 被災傷病者の緊急度判定（立石）（講義）</li> <li>7. 看護師が行うトリアージ（立石）（講義）</li> <li>8. トリアージにおける観察法（立石）（講義）</li> <li>9. 机上トリアージシミュレーション：エマルゴ（立石）（講義）</li> <li>10. 災害看護の実際（立石）（講義）</li> <li>11. 災害急性期看護（工藤）（講義）</li> <li>12. 災害と心のケア（工藤）（講義）</li> <li>13. 災害への備え（井原）（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 災害拠点病院の役割</li> <li>2) 災害時初動体制のしくみ</li> <li>3) 災害医療教育</li> <li>4) DMAT活動</li> </ol> </li> <li>14. 災害医療のトピックス：国際救援活動（井原）（講義）</li> <li>15. 終了試験</li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
看護の統合と実践2 災害看護学 メヂカルフレンド社					
【成績評価】					
試験 90% 授業態度・出席状況 10%					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	災害看護・演習Ⅱ				
開催時期	3年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
災害看護・演習Ⅰの学習を通して、災害時の救急処置の実際について学ぶ。					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害看護活動の場（救護所、避難所、福祉避難所、仮設住宅、被災した医療施設等）における食事、排せつ、睡眠、清潔、環境といった生活への援助、身体的・精神的健康管理について理解できる。</li> <li>2. 要配慮者、避難行動要支援者への看護について理解できる。</li> <li>3. 被災地域の人々、多職種との連携・協働による看護の必要性や方法を理解できる。</li> <li>4. 災害周期の変化に対応しながら多職種、地域の人々との連携・協働の上、安全なケア環境提供を継続する必要性を理解できる。</li> <li>5. 二次災害の発生と危険について理解できる。</li> <li>6. 被災者、救護者のストレスと心のケアについて理解できる。</li> </ol>					
【授業内容及び授業方法】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ～ 3. 避難所の設営（演習）</li> <li>4. ～ 9. CPR（心肺蘇生法）の実際（演習）</li> <li>10. AED（自動体外式除細動器）の実際（演習）</li> <li>11. ～ 12. 災害現場における骨折の見方と外固定法の実際（演習）</li> <li>13. 災害時における止血法の実際（演習）</li> <li>14. 災害時における搬送法の実際（演習）</li> <li>15. 試験</li> </ol>					
【教科書・参考書等】					
講師から配布される資料					
【成績評価】					
試験 80%					
授業態度・出席状況 20%					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	看護技術評価				
開講時期	3年次 後期	方法・単位	演習・1単位	時間数	30時間
【学習目的・授業の概要】					
卒業後早期に求められる臨床判断と適切な看護援助を、シミュレーション学習を通して行い、多様な看護場面における課題 解決に向けて、既習の知識や技術を統合して、的確な状況判断や行動が出来る基礎的能力を養う。					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合的な知識と技術を活用し、基本的な援助技術が実践できる。</li> <li>2. シミュレーション学習を通して、対象のフィジカルアセスメントを実践できる。</li> <li>3. シミュレーション学習を通して、対象に必要な看護援助技術を実践できる。</li> <li>4. 患者の病態の変化に気づき、優先順位の判断や臨機応変な対応ができる。</li> <li>5. 上記を統合的に学び、自己の課題を明確にすることができる。</li> </ol>					
【学習内容】					
シミュレーション教育を中心とした演習を行う。					
事前学習は、演習内容に必要な事前課題を提示する。					
事後学習は、演習の内容を振り返り、事後課題を提示する。					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方と学習方法、シミュレーターを使用したフィジカルアセスメント（講義、演習）</li> <li>2. 3. 診療の補助技術（吸引、吸入、尿管挿入、胃管挿入）（演習）</li> <li>4. 5. 診療の補助技術（採血、簡易血糖測定、点滴内静脈注射）（演習）</li> <li>6. 7. 心臓疾患患者の看護シミュレーション（演習）</li> <li>8. 9. 消化器疾患を有する患者の看護シミュレーション（演習）</li> <li>10. 11. 脳血管疾患を有する患者の看護シミュレーション（演習）</li> <li>12. 13. 呼吸器疾患のある患者の看護シミュレーション（演習）</li> <li>14. 15. 複数受け持ち患者の看護シミュレーション（演習）</li> </ol>					
※演習のときは、実習時の服装に準じ、授業開始までに指定された実習室の準備を行う。					
※それぞれの事例に応じた日常生活の援助技術、診療の補助技術など基礎看護方法論や各領域で学んだ内容を復習および練習を行い授業に臨むこと。					
※事例は、成人・老年のみではありません。					
【教科書・参考書等】					
講師作成資料					
【成績評価】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ごとにルーブリックにて評価を行います。評価には、授業に臨む態度や、事前学習、事後学習、技術の習得状況などが指標となります。</li> <li>2. 授業ごとに、その事例に必要な知識の確認のために簡単な事前テストを行います。</li> <li>3. 授業を欠席した場合は、補習授業を受けるようになります。</li> </ol>					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	在宅看護論実習				
開講時期	3年次 前期	方法・単位	実習・2単位	時間数	90時間
【実習目的】					
地域で生活する療養者とその家族を理解し、生活の質の維持・向上を目指した在宅看護に必要な知識・技術・態度を習得する。					
【実習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の役割と機能が理解できる。</li> <li>2. 在宅療養者とその家族のニーズを理解し、QOLを踏まえた看護援助を理解できる。</li> <li>3. 在宅の生活を支える多職種の人々と協働して働くことの重要性を理解できる。</li> <li>4. 保健・医療・福祉制度を理解し社会資源を有効に活用する方法を理解する。</li> <li>5. 在宅療養者とその家族を取り巻く人々を尊重した看護師としての行動をとることができる。</li> </ol>					
【実習内容】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護ステーション 利用者宅を訪問し、在宅療養者の生活の場、終末期の医療・看護活動の実際を見学・体験する。 継続看護や関係機関との連携の実際を見学し、看護師の役割を考察する。</li> <li>2. 社会福祉法人ファミーユ高知 在宅復帰支援施設・就労支援施設における看護の実際を見学・体験する。</li> <li>3. 居宅介護支援事業所 介護支援専門員（ケアマネジャー）と一緒に利用者宅を訪問し、ケアマネジメントの実際を見学し、考察する。 退院調整会議などに参加し、退院時のサービス調整の実際を知り、考察する。</li> <li>4. 社会資源活用システムについて理解し、対象者にあった社会資源について考察する。</li> </ol>					
【評価方法】					
実習態度、レポートなどから総合的に評価する。					
詳細は実習要項を参照					
担当講師の専門領域実務経験					
職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり					

授業科目	統合看護実習				
開講時期	3年次 後期	方法・単位	実習・2単位	時間数	90時間
【実習目的・授業の概要】					
<p>保健医療チームにおける看護師の役割を自覚し、責任ある行動が取れる能力を養う。  対象の状況に応じて、知識や技術を統合して実践できる基礎的能力を養う。</p>					
【達成目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護チームの一員としての役割や機能を理解し、看護活動の実際を具体的に述べることができる。</li> <li>2. 複数患者を受け持ち、援助の優先度を判断し、看護実践できる。</li> <li>3. 患者に行われる治療処置ケア技術を安全性を考慮しながら見学、1部実施できる。</li> <li>4. 病棟管理・看護管理の実際について理解できる。</li> <li>5. 退院支援の必要性を知り、支援方法について考えることができる。</li> <li>6. 統合実習で学んだことを通して、将来の看護師としての自己の目標や課題を明確にできる。</li> </ol>					
【実習内容及び授業方法】					
<p>臨地での実習：病棟実習 9 日間、地域連携室 1 日間  学内での実習：2 日間</p> <p>病棟実習  複数患者の受け持ちを通して、優先順位を考え看護援助を実践する。  病棟師長、リーダー看護師、フリー看護師のシャドウイング。  夜勤（1-9）を体験する。</p> <p>地域医療連携室  地域医療連携室の職員とともに行動し、地域との連携場面や、ベッドコントロール会議、退院調整会議などに参加する。</p>					
【成績評価】					
<p>複数受け持ち患者に対する看護実践+レポート、実習態度（事前学習含む）、カンファレンスへの参加状況などから総合的に評価する。</p> <p>詳細は実習要項を参照</p>					
<p>担当講師の専門領域実務経験  職種・経験年数：担当科目についての実務経験あり</p>					